

〈資 料〉

ある元日本軍「慰安婦」の回想 (6)

——金福童さんからの聞き取り——

吉 見 義 明

はじめに

これまでの本誌第31号以下で記したように、元日本軍「慰安婦」のハルモニたちは、もう高齢である。今のうちに話を聞いておかなければ聞き取りは不可能になると思い、僕は韓国挺身隊問題対策協議会（挺対協）に無理をお願いして、ハルモニたちの聞き取りを行っている。今回は、2012年10月13日と2014年3月22日に、ソウルのシムトで行った、^{キムボットン}金福童さんからの聞き取りを掲載したい。当日の通訳は^{ヤンチンジャ}梁澄子さんをお願いした。

便宜のために、金福童さんの略歴を記しておきたい。

- *1926年5月1日頃（旧暦では3月13日）慶尚南道梁山郡梁山面南部洞に生まれる。姉妹6人、弟ひとり、4女。
- *1934-35年頃 父死亡。
- *1940-1941年頃 警官・班長来る。季節は春または秋。軍服工場へ行くという名目で釜山第一埠頭へ。男ふたりの引率で、約30人の女性と船で下関へ。次いで、台湾経由で広東へ。
- *同年 広東に着くと、性病検査を受け、レイプされる。その後、学校のような建物で、軍人の性の相手をさせられる。毒を飲んで死の

うとするが、失敗。

- *1942年以降 香港・シンガポール・スマトラ・ジャワと移動。
- *1945年8月 シンガポールで南方第10陸軍病院の傭人（補助看護婦）となる。
- *1948年頃 帰国。
- *1992年 申告。

なお、金福童さんの聞き書きとしてまとまったものには、金福童「広東、香港、シンガポール、インドネシアを転々として」（西野瑠美子・金富子責任編集『証言 未来への記憶 アジア「慰安婦」証言集Ⅱ 南・北・在日コリア編』下巻、明石書店、2010年）がある。

金福童さんの回想の背景となる事柄をいくつか検討しておきたい。

まず、彼女の生年だが、韓国挺身隊研究所の姜貞淑氏が発見した南方第10陸軍病院の「留守名簿」（南方課南方班スマトラ係作成、1947年9月）が残っており、その中に「金福童」という名前がある（文末の資料参照。これは南方課第4班「朝鮮人 第十六軍司令部 同直轄部隊 留守名簿」〔韓国・国家記録院所蔵〕の中にある、という）。それによれば、本籍地は慶尚南道梁山郡梁山面南部洞231で、年齢は21歳、傭人となったのは1945年8月31日となっている。また、聞き取りによれ

ば、生年は寅年だと彼女は言っているの、生年は1926年ということになる。

次に、彼女が「慰安婦」にされるために連行された年だが、彼女は満14歳の春か秋（この聞き取りでは春、『証言 未来への記憶』では春か秋）だったと言っているの、春であれば5月の誕生日後（5月中）なら1940年春、誕生日前（3・4月）なら1941年春、秋であれば、1940年秋となる。

金福童さんが連れて行かれた部隊は何部隊だっただろうか¹⁾。彼女は、第15師団司令部付きの「慰安婦」だったというが、第15師団は、日中戦争期には華中に駐留しており、広東省には行っていない。また、1943年にはビルマに転進するが、蘭印（インドネシア）には行っていない。従って、第15師団付きというのは記憶違いだろう。

1940-1941年当時広東省にいたのは南支那方面軍だが、この部隊は1940年2月に編成されていたので彼女がいたのは、同軍麾下の部隊と考えるとよく適合する（1941年6月第23軍に改編）。それは、久留米第18師団、名古屋第38師団、大阪第104師団、熊本第106師団などである（第23軍は第18師団、第38師団、宇都宮第51師団、第104師団など）。

次に、彼女は香港に行ったと述べているが、これを香港攻略作戦参加部隊に付いて行ったと理解したら、香港攻略作戦に参加した部隊は第23軍の名古屋第38師団、宇都宮第51師団の第66連隊などだから、彼女はこれらのうちのどれかの部隊の「慰安婦」だったことになろう。しかし、その

後、第38師団・歩兵第66連隊は東部ニューギニアに派遣されるので、話が合わなくなる。従って、彼女は香港攻略作戦参加部隊に連れられて香港に行ったのではなく、香港を経由して南方に行ったという話として理解すべきではないだろうか。

また、上記の「留守名簿」によれば、彼女は1945年8月31日に南方第10陸軍病院の傭人になっているが、この病院は第25軍に所属していたので、第25軍麾下の部隊にいた可能性がある。第25軍は、1941年12月からマレー攻略作戦に参加した。この時の部隊は、近衛師団、広島第5師団、久留米第18師団、久留米第56師団などである。次いで、第25軍は蘭印攻略作戦に参加するが、その部隊は近衛師団、第5師団などである。

しかし、第18師団はシンガポール攻略後にビルマに派遣されるので、ここから話が合わなくなる。近衛師団・第5師団は、仏印をへてマレー攻略作戦に参加し、ついで、近衛師団はスマトラ島のメダンに、第5師団は蘭印のカイ島に派遣されるので適合するようだが、彼女の記憶では、仏印にいたという話がないので適合しない。

このようにみえてくると、彼女が最初から最後までひとつの師団に付いていたと考えたとおかしくなる。そうではなくて、途中で彼女の配属部隊が変わったのではないだろうか。つまり、南支那方面軍麾下のどれかの部隊（泥憲和氏が推定しているように第18師団の可能性が高い）に所属していて、広東省から香港を経てシンガポールへと移動し、次いで、第25軍司令部所属となって蘭印で暮し、ついでシンガポールに移動し、敗戦直後に南方第10陸軍病院の傭人となった、ということではないだろうか。

次に、彼女を連行したふたりだが、彼女の自宅から釜山・下関・台湾・広東・シンガポールと、ずっと彼女たちを引率しているの、軍人ではな

1) 以下、泥憲和氏の推定を参考にさせていただいた（市民社会フォーラム「【泥さんより】元慰安婦 金福童さんの「年齢詐称」「行動説明不能」疑惑の検証」2013年6月3日、<http://civilesociety.jugem.jp/?eid=21339>）。

く、軍に選定された業者だということになる。

今回の聞き書きで注目すべきところを列記すると、徴募時に徴募人のほかに警官や班長などが同行していたということ、軍服工場で働くこと騙されて連れて行かれたこと（誘拐）、外出の自由も拒否する自由もない軍慰安所の様相が具体的に述べられていること、慰安所に来た軍人たちの様子がなまなましく語られていること、慰安所では性の相手を拒否することができなかつたなど無権利状態であったことが詳しく語られていること、帰国後の苦難の生活が語られていることなどである。

金福童さんは現在、89歳の高齢だが、日本政府による正確な事実認知と謝罪と賠償を求めて活動を続けると同時に、吉元玉さんとともに現代の戦時性暴力被害者を支援する「ナビ基金」の設立を提唱し、この基金に全財産を寄贈すると表明している。

末筆ながら、辛い思い出を語ってくださった金福童ハルモニに厚くお礼申し上げます。過去の話をする、その後辛くて眠れない夜が続くということだが、そのことを思えば、なおさら感謝にたえない。また、通訳と記録の起こし・翻訳をしていただいた梁澄子氏に厚くお礼申し上げます。なお、以下、文中の〔 〕は編者または訳者による註である。

*本稿は、平成26年度（2014年度）科学研究費 基盤研究（B）（一般）「日本軍「慰安婦」制度と米軍の性売買政策・性暴力の比較研究」（研究代表者・林博史 関東学院大学教授）の研究成果の一部である。

金福童さんからの聞き取り（1） 2012年10月13日

出生から「慰安婦」徴募をへて帰国までのあらまし

吉見義明 改めてご体験についてお尋ねしてもいいでしょうか。

金福童 わざわざ来てくれたから、そもそもうち

の家庭がどういう家庭だったかというところから話してあげる。

昔も今も権力闘争というのは恐ろしいものでね。昔、私の祖父が国でそれなりの地位についていたんだけど、権力闘争で結局やられてしまったのよ。それで息子二人を部下に任せて逃がしたわけよ。それで一人は密陽に、もう一人は梁山^{ミリヤン}に行^{センサン}って、それでそのお祖父さんが大人になって、将校になって、お父さんを産み、父がまた結婚して私たちを生んだんだけど……。

梁澄子 ちょっと待ってください。お祖父さんが国でそれなりの地位にあったけど権力闘争で息子二人を逃がしますよね。その二人のうち一人は密陽に行き、もう一人は梁山に行きましたね。その二人のうちの一人がお父さん？

金 うん、梁山に行ったのが。

梁 密陽というのは……。

金 慶尚南道の密陽。梁山も慶尚南道の梁山。それから息子を一人だけ産んだけど、死んでしまって、娘ばかり6人を育てたわけだ。

梁 誰の娘が6人ですか？ お父さんの娘が6人？

金 そう。つまり私のきょうだいよ。息子一人は死んでしまって。

梁 あ、病気で。

金 当時、私は数え15歳だけど、満では14歳にしかなくてなかった。その時に日本人が来て男たちは徴用だ、徴兵だとして、学生たちまで学徒兵だと言って連れて行かれたのよ。それでも足りなくて「処女〔娘〕強制募集」という噂が流れたのよ。上の姉さんたち3人は結婚していたし、私は満14歳にしかなくてなかった。8歳で小学校に入って4年生まで通ったんだけど、お母さんが妹2人を連れて畑仕事をするのも大変だし、世の中も不穏だから、学校をやめて妹たちの面倒を見ろ

と言うので、家で妹の面倒を見ていたのよ。

それで、処女強制募集という噂が立つと、年老的親たちは娘を嫁に出そうとするんだけど、相手になる男がいないわけ。若い人たちは全部捕まって行ったから。だから当時は、お金がなくて結婚もできずに他人の家で使用人として働いている独身男か、障害のある男か〔しか残っていない〕。それさえも結婚相手として見つかるのがたいへんだった。

私はまだ14歳だから考えてもいなかったんだけど、軍服、階級〔章〕のない軍服を着た男2人と警察官ひとりと村の班長と一緒に来て、私に、今日本で戦争をやっている軍服をつくるのに人手が足りない、だから軍服をつくる工場に行かなきゃいけない、と。そしたらお母さんが、まだ幼い子を工場には送れない〔と言ったが〕、行って習えばいい、もし逆らったら、日本に反対する反逆者だということで全財産を没収して外国に追放する、と。それで工場に行くんだからまさか殺されはしないだろうとついて行ったところが工場ではなく、戦場で、日本軍の奴隷になって無残に踏みじられた過去がどれほど辛いかわかる、話していると本当に胸が痛むよ。

初めて行ったところは下関で、到着して1週間くらい船が来ないと言って、1週間くらいそこにいてから広東というところに行ったんだけど、そこに行ったら身体の検査を全部されたよ。それから日本陸軍第15師団本部〔司令部〕に編入されて広東であれを、男たちの相手をさせられたのよ。

そうしてそこから始まったのが、香港、マレーシア、スマトラ、インドネシア、ジャワ、シンガポール、バンコクまで、日本軍に連れ歩かれて……。シンガポールで解放〔朝鮮の解放〕になったみたい。解放になったのかどうかも知らなかったけれど。それで慰安婦をしたのが中断され

て、バンコクだったかどこだったか、今は地名ははっきり分からないけれど、第10陸軍病院があったのよ。その病院に連れて行かれて、看護訓練を受けて、年上のお姉さんたちには厨房の仕事をさせて、私くらいの子たちは各病棟に配置されて、注射を打ったり、薬を飲ませたり、血の付いたものを洗濯したり、そんなふうにごちやうございました。

それから手術の必要な患者がいて血が足りないと、みんな血液検査をされるのよ。それで血液の合う人が、その手術のために輸血をするんだけど、運悪く私が引かかって、輸血をしたら、目から火がチカチカ出て、耳にはウィーンという音が聞こえて、そうなった時にやっと医者が注射器を抜いて20ccのブドウ糖あるじゃない、あれを打ってくれた。ブドウ糖の注射を打ってから、ちょっと横になっていると、そんな風に血まで採られたのよ。

それから日にちがどんどん過ぎて、もう日本軍はどんどん撤収して行って、患者だけちょっと残って、軍人たちだけちょっと残っていたんだけど、その人たちも撤収した後、米軍が上陸して来て、私たちはもう行く場がないのよ。あの人たちはみんな行ってしまっていて、患者と担当する人しかいないから。それでそのままいたら、米軍兵士たちが上陸してきて、私たちが米軍収容所に全部連れて行って調査を全部してから、それで朝鮮人だと分かった後で韓国に来る避難民の船に乗せて、帰国して家に帰ったら8年目だって言われたよ。22歳だって。

そうして帰って来たら、親は死んだと思っていたわけ。解放後にも帰って来ないから死んだと思ったんでしょう。でも、もう帰って来たわけだけど、もう年が年だから嫁に行けって言うわけよ。嫁に行けって言われても、この身体でどう

やって嫁に行けますか。それで仕方なくお母さんに話したのよ。こういうところに行って来たって。そうしたら、嘘だって。そんなことがあるはずがないって。

梁 お母さんに嘘を言っているとされたんですか。

金 私が嫁に行きたくなくて嘘を言っているって、お母さんが、それから、〔母は〕誰にも言えないし、一人でもし死んだらあの世に行ってお先祖さまに合わせる顔がないとか、娘の管理がちゃんとできなかったとか、そんなことを言っていたよ。そのせいで病気になって、心臓病になって苦労した挙げ句に亡くなりました。

連れて行かれた当時は、土曜日、日曜日になると死ぬほど大変だったよ。土曜日には12時から始まって夕方5時まで、日曜日には……。

梁 土曜日は何時から何時まで？

金 土曜日はお昼の12時に始まって夕方5時まで。日曜日には朝8時から始まって、夕方5時まで。そんなふうになると起き上がることができない。下の方が使えなくなる。その翌日には、日曜日に出て来られなかった軍人たち。でも、そんなに多くはないし、女たちは何人もいるから、相手にする数が少し減るじゃない。そうしたら、四肢が腫れたりしているのを衛生兵が来て治療したり、薬をくれたり、注射を打ったりする。

梁 衛生兵の話はどういうことですか。

金 軍が管理しているから、身体がすごく傷ついて、具合が悪いて言う、衛生兵たちが軍隊から来て、治療をして、注射も打って、薬もくれて、そういうふうには治療をしてくれたってこと。その人たちが。

帰国から現在までのあらまし

金 解放になっても、私たちは未だに解放されて

いないのよ。故郷に戻って畑仕事をしてみたら畑仕事もしんどいし。若い時にはあらゆることをやってみたよ、商売として。商売をしながらお金がどんなに大切なものかも分からないでやってたよ。商売も、あらゆる商売を全部やったよ。そうして結局、朝鮮戦争が始まってから釜山に降りて行って、釜山^{タデポ}多大浦で刺身屋をやったのよ。

60歳までタデポで暮らしていたんだけど、ある日、テレビを見ていたら挺身隊慰安婦に行った人は申告しろって、テレビで言っていたのよ。私があそこに行って来たことは誰も知らなかった。誰にも知られないように生きて来たから、テレビにそういうふうに出て来ても誰にも言えないし。あの頃は釜山に^{キムムンシユク}金文淑っていう会長がいたのよ。金文淑会長。その人の電話番号が出ていたの。電話をしたら、どこら辺にいるのかって聞かれたよ。それで多大浦の海水浴場に梁山屋って、私は故郷が梁山だから、梁山屋っていう店をやっていると言ったのよ。そしたら見つけやすいじゃない。すぐに訪ねて来たよ。訪ねて来て、NHK放送と釜山放送を連れて来たのよ。それで近所の人たちが驚いちゃったのよ。あのばあさん、一人で商売をしているのに何かあったんじゃないかって驚いちゃって。それで、何でもない、昔の知り合いが多大浦の見物に来て、私が住んでいると聞いて会いに来たんだって言ったのよ。

そんなふうには申告したのが60代、60歳の時に申告したんだけど、それから^{ユンミヒャン}尹美香〔現・韓国挺身隊問題対策協議会代表〕が訪ねて来たのよ。申告は釜山ですて、金会長が私を日本に連れて行ったり、釜山でもあっちこっち連れて歩いたりしたんだけど、尹美香が日本に行って見たら、私が日本を出ていたって言って、私を訪ねて来たわけ。

あの頃、尹美香は20代でまだ結婚してなかった。私は60代で、それで来て、釜山にいないでソ

ウルに行こうって、それでソウルに行こうとしたら、金会長がすっごく怒ったのよ。ここでも活動できるのに、どうしてソウルにまで行こうとするのかって。でも、どう考えても、ソウルに行けば何人もいるからちょっといいんじゃないかと思ってソウルに来て、ここで何か会議があると言えばそれに合わせて出て来て。

当時は挺対協にこんな家〔元「慰安婦」が一緒に住む家〕がなかったのよ。だから何時に汽車に乗ってソウル広場に來いって言われれば来て、挺対協の職員が出迎えに來る。それで会議が終わったらまた釜山に降りて行って。当時は本当に大変な運動をしたんだよ。挺対協にはお金も全然ないじゃない。だから來るたびに汽車賃もかかるし、旅館に泊まらないといけないし。当時は本当に大変だったよ。

だから、挺対協には当時は家もなかった。ナムムの家は仏教がやっているんだけど、梁山のトンドサ^{トンドサ}通度寺から僧侶が來て見て、行ったり來たりするの大変だから伝貰^{チョンセ}〔不動産を借り受ける方法の一つ〕の家でも一つ買うようにと言って、当時のお金で1億5000万ウォン〔約1500万円〕をかけて、今、ナムムの家にいるハルモニたちを入居させることになった。それで釜山から上がって來ると、そこで寝るようになったの。当時は、活動をする時には挺対協と一緒にしていたんだけど、当時は50~60人がデモに参加したから。そんなふうにそこに泊まったりしていたんだけど、ハルモニたちが集まること多いから、ナムム家の尼僧が、菩薩さんが一人いるんだけど、その人がナムムの家に、京畿道広州市の土地をあげて、そこに家を建てろと言って、それでチョンセの家を精算したお金、1億5000万ウォンを元手にして、それでナムムの家を建てたわけよ。私は行ったり來たりが大変だったから、そこに入って7年間そこで暮ら

しましたよ。

梁 京畿道広州のナムムの家に7年？

金 うん。それから1週間に1回ずつデモをする時には挺対協と一緒に活動したの。ナムムの家は仏教がやっていたけど、挺対協が運営をしたりしてたから、ハルモニたちはソウルに來て挺対協と一緒にデモをして、デモが終わるとまた京畿道に帰ってたわけ。あそこ〔ナムムの家〕にも博物館ができたでしょ。その博物館を建てるのに、私が当時のお金で1200〔万ウォン〕出して、7年いてみたんだけど、長くかかっても解決されないし、いろんなところ、外国を回って疲れ切っちゃって、それで釜山に帰ってちょっと休むと言って、7年いてから……。

梁 釜山にも7年？

金 うん、博物館建てるのに1200あげて、僧侶が車を持ってなかったから車を一台買ってあげて、釜山に戻って一人で約10年暮らしたよ。

梁 釜山には7年ではなく10年ですか。

金 うん、そうだよ。

梁 7年ではなく、10年？

金 うん。今度は釜山で暮らしたんだけど、身体が丈夫な時にはお金に欲もなかったし。私は若い頃に稼いでおいたものがあつたから。政府からお金はまだ一銭も出ていなかった。途中であの大統領が出て來て、私たちに4000万ウォンずつくれた。それから毎月いくらかずつくれるようになったでしょ。

生い立ち

吉見 細かいことも含めて質問します。ハルモニは何年にお生まれになったのですか。

金 私は昔の人間だから何年生まれかとか、こういうのはよく分からない。寅年。寅年だけど、寅年が何年って言ったか。何回聞いても覚えられな

い。
吉見 何月何日かというのは聞いたことがありますか。

金 連れて行かれた時？

梁 いいえ、誕生日がいつか。

金 旧暦の3月13日。

吉見 証言集に5月1日と出ているのは新暦換算でしょうか。

金 うんうん。

吉見 ハルモニは4女でいいのでしょうか。

金 4番目、4番目。

梁 ハルモニが4女で、男の子というのはハルモニの上にいるんですか。

金 私の上に。

梁 すぐ上？ それでは娘3人の次に息子がひとり、その下に娘が3人？

金 うん。

梁 すぐ上のお兄さんはいつ亡くなったのですか。

金 生まれてすぐに、私のすぐ上が麻疹にかかったんだけど、終わったら弟に。

梁 え、弟ですか？

金 だから、姉さんのすぐ下だから。

梁 あ、お姉さんが麻疹にかかったんですか。つまり3番目の……

金 そうだよ。

梁 初めに3番目のお姉さんが麻疹にかかって……。

金 うん。麻疹にかかって、それが終わってから、その下の弟にうつって、その男の子が麻疹にかかったってわけよ。今なら病院もたくさんあるけど、あの頃は韓医院しかなかったじゃない。それで韓医院に行って、麻疹にかかったから薬を買いに来たって言ったんだって。女だとか男だとか言わないで。娘がかかって終わったんだけど、息

子にうつったって言えば、それに合わせて薬をくれたらろうに、ただ麻疹だって言ったもんだから、娘が麻疹にかかった時につくってくれた薬があって、病院でくれた薬をそうなのかと思ってもらって来たんだけど、それが合わなくて、飲んだらすぐにぶるぶる震えて……。

梁 その時、お兄さんは何歳ですか。

金 3歳違いだから、姉さんが3歳の時に。

梁 それじゃあ、生まれたての赤ちゃんの時？

金 いや、もうちょっと大きかったでしょう。7歳くらいかな？

梁 7歳？

金 何歳だったか分からない。とにかく息子ひとりが麻疹で死んだとだけ聞いたのよ。

梁 覚えていますか？ お兄さんのこと。

金 兄さんのことは分からないよ。

梁 ハルモニとは何歳違いですか。

金 それも分からないよ。私が生まれる前に、幼い時に死んだんだから。

父の思い出

吉見 お父さんはどんな仕事をなさっていたのでしょうか。

金 お父さんは、何て言えばいいのか。梁山南邑ではお父さんを知らない人はいなかった。

梁 梁山南邑？

金 うん。南部洞で。

梁 南部？

金 慶尚南道梁山北部洞、南部洞があるじゃない。何々洞、何々洞ってあるじゃない。その南部洞で有名な、いわば学者だよ。文字なんかもよく知っていたのよ。当時は文字を知っている人もあまりいないじゃない。その村ではお父さんは有名だった。農業をするのも人を雇ってやっていた。お父さんは管理だけして。

梁 それじゃあ土地を持っていたんですか。

金 そうよ、土地を持ってたよ。土地をいっぱい持ってたよ。小作にも出したりしてたもの。ところが日本人がお金が欲しかったら、お金を借りろと言って朝鮮人にお金を貸したじゃない。お父さんはあまりにも人がいいから、保証人になったわけよ。お金を借りる時には保証人をつけるじゃない。保証人になったんだけど、お金を借りた人がお金を返さないから、保証人に返せと。でも、返さないでいて、お父さんは病気になっちゃった。他人の保証人になって財産を奪われる状態になったから。それで病気になって寝込んでいるところに日本人が来て、返さなければ捕まえて警察署に入れると言ったもんだから、お母さんとお祖母さんが、お父さんが警察署に連れて行かれるかと怖くなって、夜こっそり印鑑を盗んで行って、判を全部押しちゃったのよ。そうして財産をたくさん奪われたわけよ。それでお父さんも酒浸りの歳月を送って最後には亡くなった。私が10歳の時だったか、9歳の時だったか。

梁 お母さんとお祖母さんは何に判を押ししたんですか。

金 お父さんを捕まえるって言うから、お母さんとお祖母さんが驚いて、怖くなって、お父さんの印鑑を盗んで行って、借金を返すって……。

梁 借金を返すという証文に判を押ししたんですね。

金 そう！

梁 これはいつ頃の話ですか。

金 私が8歳か9歳。

梁 数えて？

金 そう、そう。結局、お父さんも酒滞〔韓医学で「酒に当たる（もたれる）こと」を意味する〕で亡くなった。酒滞、お酒を飲んで病気になって、お父さんも亡くなって。

梁 その後間もなく亡くなったんですか。

金 そう、間もなく。

梁 財産は全部没収されたんですか。

金 全部ではない。食べて生きて行くくらいは残ったから、お母さんが畑仕事をしたの。

吉見 お父さんが亡くなられたのは何歳の時ですか。

金 私が8歳か9歳の時。お父さんが亡くなった後、人が死ぬと輿を作るじゃない。花輿。それがかついで出るじゃない。その花輿をつくったのの下に私が妹負ぶって入って寝ちゃった。

梁 下で寝たんですか。

金 うん。輿をつくったのの下に、花輿をつくって、その中にお父さんを入れて埋めに行くじゃない。それをつくったところの下に、妹を負ぶって入り込んで寝ちゃったのよ。

梁 下に入れるんですか。

金 こうやって持ち上げれば入れるじゃない。

梁 人が担いだら？

金 担がない。中は全部木で作ってあって、布で覆っているじゃない。その布をまくれば。

梁 じゃあ、その中に入って。

金 そう。

梁 じゃあ、お父さんの遺体は？

金 中にはなくて、庭につくって置いてあるのよ。庭に〔輿〕を置いておいて、時間になったら持って来て、その中に〔お棺を〕入れるじゃない。

梁 じゃあ、お棺を入れる前に。

金 そう！ 入れる前に、お花で作ってあったからとても綺麗で嬉しくなっちゃって、妹を負ぶって下に入って眠っちゃった。いくら探してもいなくて、あっちこっち探して、見たらその中に入って眠ってたって。

梁 すぐ下の妹を負ぶって？

金　すぐ下の妹。

梁　すぐ下の妹とは何歳違いですか。

金　3歳。

梁　じゃあ、妹は5歳くらいになっていたはずですが、まだ負ぶってたんですか。

金　うん。負ぶってた。人が死ぬと花で飾って花輿をつくるんだけど、その下に入って寝てたんだよ。

普通学校のこと

吉見　小学校は3年生まで通ったのでしょうか。小学校じゃなくて普通学校と言っていたのでしょうか。

金　今で言えば初等学校だよ。

梁　当時は何とっていましたか。

金　小学校。小学校って言っていた。

吉見　そこではハングルを習ったんですか。日本の文字を習ったんですか。

金　日本の文字も習って、ハングルも習った。日本人の先生もいて、校長が日本人だった。それで日本語も習って、韓国語も習った。

梁　では、韓国語は誰が教えたんですか。韓国人ですか。

金　韓国人が。日本語を教えるのは日本人がやっています。

吉見　では、両方とも読めるようになったわけですね。

金　日本語も、4年生まで通ったからおおよそは分かりましたよ。聞き取るのはかなり聞き取れたし。

吉見　4年生の時に辞めたのはどうしてですか。

金　お父さんも亡くなって、いないし、田畑が小さいから使用人を使うこともできないでしょ。お母さんが農業をしようと思ったら、近所の人たちとお互いの畑仕事を手伝わないといけないわけ。

お母さんがその家に行って一日仕事をしたら、その人が一日うちに来て仕事をして、そういうふうにお互いに助け合いながら畑仕事をしないといけないから、妹2人の面倒を見て家事までやるのが大変なわけよ。それで学校を辞めて妹の面倒を見てって言われて、家で家事もやって。

吉見　妹さんは小学校に何年か通ったんですか。

金　妹たちは、私がいつも面倒を見ていて、14歳の時に私は出てしまったから、妹たちがどうなったか分からないよ。

梁　その時までは学校に通っていなかったんですか。3歳違いなら、ハルモニが連れて行かれる満14歳の時にすぐ下の妹さんは満で11歳ですよ。11歳なら学校に……。

金　通っていたかもしれない。でも、はっきりとは覚えていない。私が行って帰って来たらいなかった。妹は、私が戻って来たその年に嫁に行ったんだって。私が帰って来るかと思って嫁に行かせないでいたんだけど、解放されても帰って来ないから、死んだと思って、その年に妹が嫁に行っていた。

梁　それは解放された後ですね。解放されて、ハルモニは翌年に帰って来たんですか。

金　いつ、何年経って帰って来たのかは分からないけど、解放されてからすぐには帰れなかった。

梁　それでハルモニが帰って来た年に嫁に……。

金　うん。一番下の妹は、ちょうど学校に通っていたよ。私が戻って来た時に。

吉見　一番下の妹さんとは年がどれくらい離れているんですか。

金　6歳じゃないかな。3歳、3歳だから。学校に通っていて、私が戻った後は、私が稼いであの子を勉強させたのよ。勉強させて、私が嫁にも行かせたのよ。

梁　ハルモニが戻って来た時には中学生ですか、

高校生ですか。

金 中学は出ていたかな。当時、^{チンジュ}晋州に高校があったのよ。梁山には中学校があったし、晋州に高校があって、晋州まで私が行って高校に入学させたよ。

梁 じゃあ、戻って来た時には中学生で、晋州の高校に……。

金 うん。今でも姉さんがひとり、妹がふたり生きているよ。私のすぐ下の妹が、生活が大変なの。あの子の生活の面倒を見るために、私がお金を随分と使ったのよ。あの子の孫、女の子と男の子を大学まで送って就職もさせて、私の家もあの子たちにあげて、ここに来て住んでるのよ。私の環境を美香はよく知っている。

母との生活

吉見 当時はお母さんの農作業でなんとか暮らして行けたんですか。

金 暮らしてはいけたよ。でも、それで十分に食べてはいけない。解放される前は、あいつらが供出といって、この田んぼからは何石って割り当てるのよ。それで雨がたくさん降って凶作になると、全部とられちゃって、食糧がなくて、あいつらが小麦粉とトウモロコシ粉と安南米〔インディカ米〕を配給してくれる。自分でつくった米は全部とられて、配給でもらったもので暮らすから、いつも食糧が足りないよ。

解放されて帰ってみたら、日本人がいなくなって、奪って行く人がいなくなったから、家に穀物がびっしりと積まれていたよ。私が戻って来て、家事を私が一手に引き受けたから、全ての管理を私がしなければならなくなった。自分のところで作ったものを全部食べきれないから、米を町まで牛車に乗せて売りに行ったのよ。それを売って、他の物を買って、そんなふうに通商を始めた

んだよ。

世の中に出てから、お金がなくて貧乏で困ったことはないよ。幼い時に連れて行かれて、お金は必要ない。あそこでは食料は出るし。服なんかもいいもの着る必要ないじゃない。簡単服何枚かくれば、それを順番に着て。それに、時々、風呂敷包みを持って来るのよ、その管理する人が。そしたら、それに着替える。だからお金なんか要らない。

韓国に帰って来る時には、お金は一銭も持っていなかった。一銭も持たずに帰って来たんだけど、釜山港に着いたら、当時のお金で千ウォンと、梁山まで行くには^{ムルグム}勿禁まで汽車に乗って行かないから、その勿禁まで行く切符1枚とお金を千ウォンくれたよ。

梁 勿禁というのは梁山から近いんですか。

金 そうよ。

梁 駅の名前ですか。

金 うん〔慶尚南道梁山市勿禁邑〕。その切符を1枚くれて、お金を千ウォンくれた。

連行時の状況

吉見 軍服の工場に行けと言って来た男の人は具体的にはどんな人が話していただけますか。階級章のついてない軍服を着た男とおっしゃっていましたが。

金 軍属が着る服は、軍人たちと同じ服だけど、階級〔章〕がない。

梁 そういう服を着た男がふたり来たんですか。

金 うん、でもひとは韓国語がちょっとしゃべれたよ。

梁 その人は韓国人と同じように、韓国語が流ちょうでしたか。

金 流ちょうにはできない。在日朝鮮人が当時いたのかどうか知らないけど、韓国語ができたよ。

梁 ジャあ、日本人が話すような韓国語？

金 うん、そう。

梁 もう少し具体的に、その人たちはどんな人たちでしたか。

金 どういう人かは分からないよ。そうやって連れて行かれて、釜山に行ったら、第一埠頭、埠頭に行ったら、日本の軍人が銃を持って、扉の前に立っていたよ。行ったら戸を開けてくれたけど、中に入ったら、私みたいに来た子が30人くらいいたかな。何人かははっきり分からないけど、そんなふうに集まっていたよ。私が行ったら、その日の夜に、船に乗って、下関に行った。

梁 その日の夜に、

金 うん、行ったその日の夜に、

吉見 その、家に来た人は、一緒に下関まで付いて行ったんですか。

金 そうだよ、ふたりは、

梁 ふたりは？ だからその階級章のない……。

金 そうだよ、その人が引率してそこまで行ったんだよ。そこまで行って、その人たちが管理をしたんだよ。そこに行って〔軍人の〕相手をするじゃない？

梁 広東、香港までずっと？

金 そう、そう。

梁 ジャあ、どこまで？ シンガポールまで？

金 そうだよ。

梁 第10陸軍病院までは？

金 行ってない。シンガポールまで行った後はどこに行っちゃったのか見えなくなった。シンガポールに行ってから、憲兵が連れに来たよ。

梁 憲兵が？

金 うん。幌のついたトラック、車。トラックに幌を付けて、赤十字のついたトラックで来て乗れと言ったのよ。何も持たずに、服だけ、着る服だけ持って乗れて言われたの。

梁 その時にいなくなったんですか。それまではいたんですか。

金 うん、うん。そうそう。

梁 シンガポールでは慰安所は……。

金 慰安所はあっても、軍人は来なかった。

梁 シンガポールでは？

金 シンガポールでは、

梁 一度も？

金 初めは来ていたよ。

梁 軍人が来なくなって、そのふたりも見えなくなって、トラックが来た？

金 軍人たちがずっと来ていたのに、おかしなことに軍人が来なくなった。

梁 その時に、そのふたりも来なくなったんですか。

金 おかしいな、どうしたんだろうと思ってたのよ。

梁 それではハルモニ、軍人たちが来ていた頃にはシンガポールでそのふたりはいたんですか？

金 いた。

梁 では、軍人たちがいなくなったら、そのふたりもいなくなったんですか。

金 うん、いなくなった。

徴募した者とは？

吉見 そのふたりのうちひとりは日本人で、もうひとりは？

梁 そのふたりのうちのひとりは韓国語もできない日本人で、もうひとりは、韓国語はできるけど……。

金 ちょっと下手だった。

梁 その人も日本人？

金 日本人かどうかは分からないけど、韓国語を話すんですけど、下手に話す。

吉見 このふたりの名前は覚えていませんか。

金 忘れちゃった。日本の名前なんだけど。当時は私たちも全部日本の名前に変えたじゃない。日本人が韓国の名前を変えさせて、日本の名前を作らせたじゃない。その人たちも、なんとかムラ、ムラって付いた気がするんだけど、名前がはっきり思い出せない。

梁 ムラが付いたのは日本人の方ですか？ どちらの人がムラのつく名前だったか……。

金 はっきり思い出せない。名前が思い出せないのよ。

吉見 何歳くらいの人だったか……。

金 当時は30歳過ぎに見えたけど。

吉見 どっちが偉そうにしていましたか。

金 年が上か？

梁 いいえ、年ではなく、管理者としての地位がどっちが上に見えましたか。

金 分からない。それは分からないけど、ふたりで、ひとりが部隊に行って食べるものをもらって来るのよ。私たちがいるところで、その村、その部落で、ご飯をつくる人が入って来ているのよ。ご飯をつくる人がいるんだけど、もらって来るのはその人たち、管理する人たちが部隊に行ってもらって来る。私たちが軍人の相手をするだけ。ご飯をつくったりするのはとてもじゃないけど、できないもの。持って来てくれたものを、時間になったら食べる。

梁 そのふたりのうちひとりがいつももらいに行くんですか。それともふたりとも？

金 ふたりで相談して行くから……。私たちがそういうことにはあまり関心を持たなかったから。

自殺を企図

梁 そこにいる現地の人を連れて来てご飯を作らせていたじゃないですか。それは女性ですか。

金 女、女。女が入って来るんだけど、その人も

……。

梁 それはどこの話ですか。広東？

金 広東に行ったら広東の女たちが来てやってくれたし、香港に行った時にはまたその人たちが……。言うなれば、日本の手先たちがいるじゃない。そういう人たちが……。例えば、私たちが何かお使いをさせて、下手をしたらその日からその人たちの首が飛ぶ。姿が見えなくなる。他の人が来る。

梁 ハルモニたちが何かお使いをさせて、その人たちの首が飛ぶんですか。

金 うん、分からないうちに。

梁 例えばどういうことですか？ お使いをさせて下手をするって言うのは。

金 例えば、腹立ち紛れにお酒を一杯もらって来いとか、また何か違うものをもらって来いとか。私は家を出る時に、お母さんがお金1円を〔くれた〕、当時は1円は大きいお金よ。スカートの中側にポケットを縫い付けて、1円を入れてくれるながら、お腹がすごく空いたら、これで何か買って食べるようにと言いつつくれたのよ。

広東に行って、夜ひどいことをされた後、血がたくさん出るじゃない、年も幼いから。それで血のついたものを洗いに行った。洗濯物を干すところがあるのよ。そこに行ったら、私と一緒にいった子がふたり、泣きながら座り込んでいたの。そのふたりも、その夜やられたのよ。それで、私たち、とても生きていけない、死のう、ということになったの。でも、どうやって死ねばいいかって、何かなきゃ死ねないじゃない。私がお金を持っているんだけど、どうやったら死ねるかかって言ったら、その子がお酒をたくさん飲んでも死ぬって言うのよ。

そこに働きに来ていた女がいたのよ。その女を呼んで、言葉は通じないから身振りをしたわけ。

飲んで、バタッと倒れるやつ買って来てくれて
お金1円をあげただけど、これくらいのを買っ
て来て、バケツに水を汲んできて、これ飲んでか
ら水を飲めって言うのよ。飲んで死ぬ薬を買って
来いって言ったつもりだったんだけど、飲んで
酔っ払うもの、お酒を買って来いって言っている
んだと思って酒を買って来たわけだ。それで最初
に一杯飲んだら、ここ〔胸〕が焼けるようでね。
そうやって飲んで、水を飲んで、女の子3人で全
部飲んだから生きていられるかね。みんなぶっ倒
れたよ。

梁 それでその子の首が飛んだんですか。

金 そうそう（笑）。

梁 ハルモニの言うことを聞いて酒を買って来
て？（笑） ハルモニは初めから酒を買って来い
と言ったのではなく、飲んで死ぬ薬を買って来い
という意味だったんですか。

金 そうだよ。言葉が通じないから、こうやっ
て、飲んでぶっ倒れるものを買って来いって言っ
たら酒を買って来たんだよ。

金 それで全然起き上がることができなくて、部
隊から衛生兵たちが飛んできて、中にホースを入
れて抜き出すのよ。女の子3人を寝かせておいて
鼻から入れて、1週間目が覚めなかった。起きた
ら目がグルグル回って……。それでも死ななかつ
たよ。

軍服工場の仕事と言って勧誘

吉見 最初にふたりの男が来た時に、軍服工場に
行かないと反逆者にすると言ったのは、そのふた
りの男が言ったのですか。

金 その3人のうちの誰が言ったか、それははっ
きり思い出せないけど、そんなことを言ったの
よ。だからうちのお母さんがダメだと言ったら、
これに逆らったら日本を無視することになるっ

て。だから警察官が言ったのか、誰が言ったのか
思い出せないけど、韓国語に通訳してくれるの
は、その班長がしていた、朝鮮人が。この人た
ちが協力しなかったら家財道具も全部持って行っ
て外国に追放するって言っているけど、どうする
かって。

梁 警察官は日本人だったんですか。

金 うん、警察官は日本人だよ。

吉見 工場に行けば儲かるといった話はなかった
んですか。

金 お金の話は聞いたかどうか分からない。とに
かく人手が足りなくて、募集をしているだけで
、嫁に行く年になったらいつでも返してあげる
から心配するなど。工場から返してあげると。私
たちはお金は必要なかったから。農業をして暮ら
している人が、お金が必要で子どもを売り飛ばし
たりしないよ。過去にはお金を稼ぎに行く人もい
たから、そんな話が出るんでしょう。そういう商
売もあったんでしょう。でも、私たちの場合は、
ここから何十人送る、この面からは何十人、こん
なふうに募集をしると命令を出しているわけだ、
日本政府が。働いている人は韓国人だよ。韓国人
が味方になって、自分たちの一家親族は全部よけ
とくから人数が足りないわけよ。だから農民の子
どもたちが、年が多い少ないにかかわらず、力の
ない子どもたちがみんな連れて行かれたんだよ。

吉見 当時、お姉さんたちはみんな結婚してい
た？

金 姉さんたちはみんな嫁に行っていたよ。一番
上の姉さんと二番目の姉さんは、すぐ上の姉さん
は、それまでは嫁に行っていなかったんだけど、雰
囲気が怪しくなって、変な噂が回り始めてから嫁
に行っていたんだよ。だから引っかからなかった。私
は幼いから考えてもいなかった。それが突然
……。

吉見 ふたりがやって来たのは14歳の頃というのは、いろんな出来事で記憶がありますか。

金 ある人は寝ていたところを連れて行かれたとか何とか言うけど、私はそうは思わない。何しろ日本政府が郡や面に募集をかけたから私が引っかかって連れて行かれたんだよ。

吉見 季節はいつ頃でしたか。

金 春かな。服を厚くは着ていなかったから。

吉見 最初は下関に一旦行って、それから……。

金 ここから夜に出たら朝到着したよ、下関に。行ってみたら大きな畳部屋があって、隅の方に押し込まれたよ。それから弁当箱、こんな弁当箱あるじゃない、それにご飯一つとお汁一つ持ってきた。そこで泊まった。

梁 その一つの部屋に何人が入れられたんですか。

金 多分30人くらいはいたと思う。人数が何人だったか、今は分からない。とにかく大勢いたよ。多いのに、一つの部屋に押し込んで……。

梁 他のところでも、ハルモニたちは一カ所に居たんじゃなくて、何か所かに行ったじゃないですか。

金 私たちは陸軍第15師団の本部に付いて歩いたんです。第一線地帯に行くとき20里先で戦争をやっているわけ。あいつらが20里先に上陸するじゃない。そうしたら今度は本部が付いて行って、戦争した軍人たちと本部にいる軍人たちを交替させる。交替させて軍隊に行った奴らは部隊に残って、新しい軍人が行って、そんなふうにしていた。ところが帰って来る時には、前に見えていた人の中で見えなくなる人が大勢いたよ。それは、死んだのか、生きていたのか分からないけど。

下関・台湾・広東、性病検査

吉見 下関から最初に行ったところは広東になる

わけですか。

金 いや、下関から台湾に行った。台湾に行って、台湾の市内〔都会〕には行かないで、何か大きな畑があった。畑に、田舎に行くと、畑に何か監視するのがあるじゃない。

梁 ^{ウォンドゥマク}園頭幕〔畑の番小屋〕。

金 うん、ウォンドゥマク。ウォンドゥマクみたいなのが、大きいのがあったのよ。そこに私たちを連れて行って、その人たちが食べ物を買って来てくれた。買って来て、私たちに作って食べるって。物はそのふたりが買って来てくれて。船がなかなか来ない。なぜかと言うと、昼間は行けなくて、夜にならないと行けないから、船がなかなか来ないから、その船を待つと言って、1週間くらいかな、そこにいた。

しばらくいて、船が来たと言うので、また夜行って、昼にはまた止まって、また夜になると進む。船には何か荷物をいっぱい積んでいて、変な馬の臭いみたいなものもしたよ。一番下に入っていたんだけど、上で何か聞こえたら、チョッキを一つずつくれながら、上で何か聞こえたらこれを持って上がって来いって言われた。

吉見 兵隊は乗ってないわけですね。

金 軍人もいっぱい乗っていたよ。荷物をいっぱい積んでたよ。

梁 その軍人というのは本物の軍人ですか。当時は階級章のない軍服を着た人もたくさんいたでしょう？

金 その人は私たちと一緒に行ったし、その人たちは最後まで私たちと一緒に行った。船の中には軍人がいっぱいいたよ。船に乗って行く人はみんな軍人だよ。

吉見 台湾にしばらくいて、それから広東に行ったんですね。

金 そうだよ。広東に行ってから身体検査をされ

た。身体検査をして、そこから始まるんだよ。広東でああやって酒を飲んで死にそうになって生き返ったじゃない。死ぬこともできないし、言うことを聞かなければ殴られるだけ。だから諦めて言われた通りにしたんだよ。

最初の暴行

梁 死のうとしたのは、初めて暴行された日ですか。

金 そうだよ。初めてやられた日。

吉見 いつ頃から少しおかしいと思うようになりましたか。

金 そこに行って身体検査をする時に、服を脱げと言われて、身体検査をする時も、工場でも身体検査をするのかと思っていた。そう思ったんだけど、もう全部準備がされていた。行ってみたら、大きな学校みたいところに布を張って、木、ベニヤ板で寝台も作って、全部準備がされていたよ。それで部屋に一つずつ入れられて……。

梁 身体検査の後、その部屋に入って……。

金 そう、そう。

梁 天幕を張っていたというのは、布で仕切りをしていたという意味ですか？

金 そうだよ。

梁 隣の部屋との仕切りが布なのですか。

金 前が。

梁 前が布で横（の仕切り）が……。

金 ベニヤ板。上が布で、〔横との仕切りが〕ベニヤ板で、叩けばお互いに全部聞こえる。

吉見 広東に着いた時に、ハルモニたちを連れて行った男は軍に挨拶に行ったんですか。

金 あいつら同士はみんな知り合いですよ。

梁 軍に挨拶に行ったか、それは分かりませんか。

金 とにかく船から降りて、どこだか知らないけ

ど行ったら、位の高い軍人たちが椅子にずらっと座っていたよ。椅子に座って、サーベル下げて、ずらっと座って、私たちが前を通ったら手を出せと言って、出したら手を触りながら中に入れて、中に入ったら軍医官がいた。中に入ってみたら、布を張って、身体の検査をするところがあったよ。

梁 そのサーベルを下げてずらっと座った人たちに、手を見せたんですか。

金 うん。見せろって言うから。

梁 軍医官ではなく？

金 うん、〔軍医官ではなく〕その人たちが見せろと言ったの。

梁 それで中に入ったら軍医官がいたんですか。

金 そう。中に入ったら軍医官がいて、服を脱げって言うから、ぶるぶる震えたよ。乳首もこれくらいしかない、まだろくに出来てもないのに、脱げってと言われて、脱いで見せたら、全然成長してないから、そのまま後ろに立てって言われたよ。

梁 船を下りて、そこまでは車で行ったんですか。

金 船を下りてからは何に乗ったか分からない。何かに乗ることは乗ったんだけど、何に乗ったのかは思い出せない。

20人以上の同行者

吉見 一緒に連れて行かれた20人だか30人くらいというのは……。

金 みんな一緒に行った。みんな一緒に。みんな一つの家で……。

梁 20人ですか、30人ですか。

金 30人くらいはいたと思う。20人以上いたよ。

吉見 年齢はどうか。同じくらいが多いですか。

金 私より年上が多い。私くらいの、同じ年代がまた多いし。それからちょっと年上の姉さんたちがいて。

吉見 みんな慶尚南道の子ですか。

金 そうだよ。ソウルとか他のところはよく分からないけど、私が行ったところは全部、慶尚南道の金海、馬山、それから蔚山、もういろんなところから、釜山、その辺りから一番たくさん行ったと思う。集まった人が全部、慶尚道、つまり慶尚南道、慶尚北道から集まっていた。

今も、馬山に二人くらいいるでしょ。昌原にもいるし。外にもたくさんいるじゃない。入院している人が多い。今、ここにいる〔名乗り出た〕ハルモニたちは、満州、中国に行ったハルモニが多いらしいよ。今、ナムムの家にいるハルモニたちも、中国から来た人が多い。ところが不思議なことに、子どもたちが北に、西に、みんないるんだって。私は〔帰国後〕いくら薬を飲んでも〔子どもができなかった〕……。

一人で商売をしていると、近寄って来る人も多いし、一人で商売しようと思ったけど、なかなかうまく行かない。それで男やめと一緒に暮らしたことがあるの。まだ若かったから、子どもでも産んでみようと思えたら薬を飲んでみたけどダメ。子どもが出来るわけがない、子宮がぼろぼろになってるんだから、子どもなんか出来ないよ。ところが、不思議だねえ。あそこに行って来て子どもがいる人もいるのを見ると、私たちほど酷くやられなかった人なんだろうと思うのよ。

梁 ハルモニが子どもを産もうと薬を飲んだんですか。

金 そうよ。

梁 でも、結婚はしていませんよね。

金 商売をしようと思っても、年が若いでしょ。商売をしようとしてて、お互いに目が合って、且

那を一人得たわけよ。それで7年くらい一緒に暮らしたかな。その人も舌癌で死んじゃって。私と一緒にいった人はみんな死んで、今では入院してる人も頭が変になってる。

軍慰安所の様相

吉見 検査が終わって最初に入れられた家は普通の民家ですか。

梁 先ほど学校のようなところと言っていましたが、それは学校だったんですか。

金 学校だか何だか分からないけど、家が大さいの。すごく広い。それが何かは分からない。ベニヤ板で部屋を一つ一つ、こんなふうに関方に……。真ん中に廊下がこうあって、それから両側にこういうふうに関、こうなってて、両側をベニヤ板だけで〔仕切って〕、前は……。

梁 じゃあ玄関というか、入り口はどこにあるんですか。こうなってることですよ。ハルモニ、今おっしゃったのは。

金 そう、こっちから入って行くと、こっちにも行くし、こっちに行けばトイレがあるし、こっちに入ればその中にはトイレがあるし。

梁 それじゃあ、ここに……。

金 そんな絵を描いても私には見えないよ〔緑内障で目がほとんど見えない〕。

梁 あ、入ったら目の前に廊下があって……。

金 そう、廊下がある。

梁 両側に部屋があって。

金 そう。

梁 じゃあ、部屋はいくつくらいあるんですか。

金 それは人数分だけある。30人なら30。人数分だけ。

梁 一番奥にトイレがあるんですか。

金 うん、一番奥に。

吉見 お風呂は？

金 だからトイレに行くと風呂がある。風呂場を作ってある。薬物で手を拭いて、薬物で洗うのも作ってある。

梁 消毒薬は各部屋にはないんですか。

金 部屋にはない。トイレに行けば、それ作ってある。

梁 これは何ですか。

金 ゴムの紐がついてて、点滴の瓶みたいなもの作って、その中に赤っぽい薬物を入れて、その下にホースをつけて、下から引っ張ると洗えるようになってるんだよ。

梁 そこにトイレがあって浴槽もあるんですか。

金 浴室ではなく、シャワー式になってる。

梁 浴槽はなかったんですか。

金 浴槽はない。熱いお湯なんか要らないんだよ。暑いところだから。国が暑い国だから熱いお湯は要らないの。脱いで、ひねれば水が出るじゃない。そしたらそこでシャワーして、水でそのまま……。

梁 便器があるんですか。

金 便器はある。

吉見 食事はどこでするんですか。

金 家大きいじゃない。私たちの部屋がこういうふうにあるじゃない。それで奥に行くとご飯食べるところが別にある。

梁 別に、どこにあるんですか。

金 一つの家の中に、ご飯を作るところと、管理する人たちのいるところは別にある。入って来るところに玄関があるじゃない。玄関が大きいじゃない。入って来たら、その前にはご飯をつくって管理する人がいるし、こっちの方にずっと入って来ると、部屋があって間あいだに入る部屋があるじゃない。

梁 玄関があり、玄関を入ると管理者の部屋があり、ご飯を作って食べる場所があって、こう曲

がるみたいです。これが全部廊下ってことで、こういう風に入っていく。

吉見 出口は別ですか。同じところから軍人が入って出ていくのでしょうか。

梁 入り口はみんな同じですか。今言っていた玄関から入ると、管理者がいて、ご飯食べるところがあって、それからこうやって入って行くと……。

金 うん、真ん中にこうなっていて、こっちから出たらお互いに向かい合わせになる。

梁 軍人もその玄関から入って来るんですか。

金 そうだよ。

梁 玄関は一つしかないから？

金 そうだよ。そうやって入って来て、ここに入って、ここに入って、ここに入ってやるんだよ。名前が全部ついている。

吉見 どんな名前ですか。

梁 ハルモニの名前は何でしたか。

金 カネムラ フクヨ。

吉見 そういう名前が入りに。

金 部屋ごとに。部屋ごとに前に、名前がついている。軍人たちが来たら名前を見てここに入ったかそこに入ったかする。

吉見 軍人は誰の部屋に行くか選ぶことができたんですね。

金 そう。私たちがいるから、顔を見て、名前を覚えるじゃない。今日来て、もう来ない人なら分からないだろうけど、部隊が同じ部隊だから、1週間ごとに休暇をもらって来るからみんな顔見知りになるじゃない。

吉見 15師団の何という部隊か覚えていますか。

金 第15師団の本部だよ。それが名前だよ。第15師団陸軍本部だよ。それから病院も第10陸軍病院だし。それが名前じゃない。

吉見 その師団の人は広島の人だったか、どこの

地方の人だったか分かりますか。

金 そんなの分からないよ。

梁 軍人たちがそんな話しませんでしたか。

金 しないよ。

吉見 広島という地名を聞いたことはありませんか。

金 それは分からないけど、神戸、神戸というのを陸軍病院で炊事班長って、厨房の班長なんだけど、その人が神戸って言ってたよ。他の人は分からない。

軍慰安所の名称

吉見 慰安所には名前がついてたんですか。慰安所とって言っていましたか。

金 当時、慰安所という言葉はなかったよ。名前は「ミブンジャン」だよ。ミブンジャン。ミブンジャンというのは、何かお茶を売ったりするところの名前としてあったんだよ。慰安婦じゃなくて、ミブンジャン。人が見たらなんか……。

梁 ミブンジャンというのは朝鮮語ですね。「ジャン」は「場」という漢字？「ミ」は「米」？

曹 禎焘 「美」でしょう。

金 「美」だよ。

曹 「美しく粉飾した家」で「美粉場」だと思います。

金 慰安婦という言葉は韓国に来て初めて聞いた。どうして慰安婦って言うんだらうって思った。当時は慰安婦という言葉は聞いたこともない。

吉見 なんとか倶楽部という言葉は聞いたことはありませんか。

金 とにかく、あの時はミブンジャンという言葉だけ聞いたんだよ。私がいたところはミブンジャンだって。

梁 そのミブンジャンという言葉は日本語で聞いて

たんですか、韓国語で聞いたんですか。

金 韓国語で聞いたか、日本語で聞いたか分からないけど、私たちが聞いたところではミブンジャンだって。私がいた家はミブンジャン、ミブンジャンだって。

梁 でも、今でも韓国語で覚えているわけだから、そこにいた女性同士でミブンジャンというふうに韓国語で話したんですかね。

金 あの子たちもミブンジャンだと言えばみんなミブンジャンだと思ってるでしょ。

軍慰安所の様相（続き）

吉見 自分の部屋はどれくらいの広さでしたか。

金 大きいとは言えない。ふたりが入ったら、ベッドがこうなってて、枕を置いて、毛布を下に1枚敷いて、1つ置いて、ふたりでちょうど寝るくらいで、こっちには靴脱いで、服脱いで、ここに上がって来るところがあるだけ。

梁 靴は廊下まで履いたままで来て部屋の前で脱ぐんですか。

金 部屋に入ってから脱ぐんだよ。服を、外で脱いで中に入ってはこれないでしょ。部屋に入ってから脱ぐんだけど、せっかちな奴は服脱ぐ暇もないよ。日本人は、軍人たちはマキハン〔日本語で発音＝巻き脚絆〕を巻いてるでしょ。それをほどこいて服を脱いでると時間がかかるんだよ。だからそれ着たままで、これがベッドだとしたら、頭をこっちに置いて、こっちを見ながら、服だけ上にまくり上げて、こう横になると、立ったままボタンだけはずしてやっては交替して、やっては交替して、そうやって一日に数十人を相手にするんですよ。

でも、普通の人には時間がかかるじゃない、そうでしょ？ 軍人たちは時間がないんだよ。とにかく女にしょっちゅう会えるわけじゃないから、女

を見ただけで気分がおかしくなるのか何か知らないけど、触っただけで何て言うか、サックあるじゃない、ゴムの。そのゴム付けようとしても、そのゴムがうまく入らないのよ。そしたらそこに塗るのがあるの、薬が。それを絞り出して塗ったら油みたいなの、それが。油みたいになってるの。それ塗ったらすぐにすっと入るんだよ。そしたら3分もかからない。3分もかからないで終わるんだよ。だから1日に数十人の相手ができるんだよ。そうすると、日曜日みたいな日には、夕方日が暮れると、立ち上がることもできない、四肢が腫れる。そうすると軍医官が来て治療して、薬をくれて、注射を打ってくれる。

吉見 休みの日はありましたか。

金 休みの日はないよ。ただ普通の日には軍人たちが戦争するんだから、そんなに毎日たくさん来るわけじゃない。普通の日、日曜日に来なかった人たちが、出られなかった軍人たちが来るから何人にもならない。

梁 平日ですね。

金 うん、平日。平日にはあまり多くないから、身体を休めることができる。だけど、土曜日と日曜日は死にそうだよ。

梁 もっとお聞きしたいのですが、また改めて。香港やマレーシアの話なども伺いたいと思います。

金 マレーシアに行っても軍人を相手にするんだし、香港行っても軍人の相手するんだから〔同じだ〕。

梁 それぞれどれくらいいたか、覚えていますか。

金 それは覚えてない。とにかくそこに行ったということだけ覚えてる。そこに行ったら、ここはマレーシアだって言うから、ああ、マレーシア、マレーシアって、そうなんだと思っただけ。どこ

に行ってもみんな避難しちゃって、人はいないし、純粋に軍人たちしかいない世界なんだから、同じ話だよ。どこに行っても同じことをしたんだから。

梁 ハルモニは記憶力もいいし、経験が他のハルモニたちとも違うので……。

金 内容は違うと思いますよ。実際に、この政府が率先して募集をしたということ、80過ぎ、90歳くらいなる人は多分みんな知っていると思うよ。あの中にいる人は分からない。70歳くらいの人でも、あの環境のことは知らないでしょう。あの環境を知っているのは、80過ぎ、90歳くらいになった人でないと分からない。当時は、挺身隊に連れて行かれまいと、私くらいの方が父親みたいな人と結婚して、旦那さんはとっくに死んじゃって、お婆さんになって子どもたちと暮らしている人が今も釜山にもいますよ。私のいたマンションにもふたりくらいいましたよ。あそこに連れて行かれないために、そういう人のところに嫁に行った。旦那は年が行ってるから先に死んじゃって、息子たちと暮らしてるって。だから、当時の人は分かるけど……。

吉見 もっとお聞きしたいのですが、時間が来てしまいました。また、次の機会にお話を聞かせてください。ありがとうございました。

金福童さんからの聞き取り（2）2014年3月22日

広東での最初の体験

吉見 2年前にお話を伺って、広東に連れて行かれたというところまで伺ったので、今日はその続きをお聞かせいただければと思います。辛い思い出をまたお話しただかなくてはならないのですが、その点についてはお許しください。

金 あの頃はもっとひどい目にあったんだから、台湾を経て広東に行ったじゃない。広東に着いた

ら日本軍の偉い人がずーっと座っていたよ。入ったらその人たちが検査するの。何歳なのかって聞くから、14歳だって言ったら〔驚いたようで〕顔を上げたよ。それから中に入ったら軍医官が身体の検査をするのよ。どうして工場で身体の検査をするんだらうって。その時にもまだ、そういうところだって分からなかったから。あのときの恐怖感は言葉では言い表せないよ。検査をした後、宿舎に行けって言われたんだけど、宿舎に行ったら、準備が全部できていたよ。人が何人来るって(いうのに合わせて)全部準備が出来ていたよ。そうして始まったんだよ。広東から始まって……。

広東で始めてされた時に、あんまりにも悔しくて死のうと思ってね、あれをしたけど結局死ぬこともできなくて、今でもあの時に胃を痛めたのがきちんと治ってないから、食べ物をもろくに食べられない。たくさん食べられなくて、1日2食しか食べないじゃない。

吉見 最初に連れて行かれたのは広東の市内ですか、田舎のようなところですか。

金 広東から始まって香港に行ったのは間違いないんだけど、マレーシアとスマトラはどっちが先か分からない。マレーシア、スマトラ、インドネシア、ジャワ、シンガポール。シンガポールで解放されたんだと思う。

梁 広東は市内ですか、田舎ですか。

金 田舎ではない。市内みたいだけど、人はいなかった。戦時だから、だから田舎なのかどうかは、人があまりいないから、民間人は全然会うこともないから、どうだかよくは分からない。

吉見 かよって来る軍人たちが日本のどこの出身か記憶ありませんか。

金 どこの出身かどうやって分かるの。軍医官の一人で、具合が悪い時とかによく面倒を見てくれ

る人がいたよ。その人は出身が神戸だと言っていた。でも、他の人がどこから来たのかわからないよ。

梁 その軍医は最初から最後までずっと一緒にいたんですか。

金 部隊が移動するたびに私たちも一緒に移動したから、その人もずっと一緒だったよ。陸軍本部〔司令部〕だと言っていた。第15師団だか、本部だから、本部が移動する時にはトラックに荷物を載せて、その荷物の上に荷物のように乗せられて、移動したんだよ。その時に積んであった荷物が釘が出っ張っていて、車が揺れるたびにそれが肛門に当たって、今でも傷がある。今でも痛い。その場所が。そのせいで随分と苦勞したよ。

吉見 軍服工場で働くと思って行ったわけですよ。実際には違っていただけですが、最初にハルモニを暴行したのは、その軍医だったんですか。

金 うん。軍医。将校だよ。最初の日に来て、それをしようとするんだけど、怖くて逃げたんだよ。逃げて、倉庫みたいなのところがあってね、そこに隠れてたんだけど、そこで寝てしまったんだよ。それで寝て起きたら夜が明けてた。夕方になってその軍医がまた来てひどく殴られたよ。

梁 軍医ですか、将校ですか。

金 将校だよ。最初に検査してくれた人が軍医官で将校なんだよ。要するに医者だよ、医者。下の連中はいわば看護師だ。それで言うことをきかないと言って殴られたのよ。

梁 軍医に殴られたんですか。

金 そうだよ。

梁 軍医が親切にしてくれたんじゃないんですか。神戸出身の……。

金 軍医でも将校がいて、下に軍人たちがいるじゃない。いうなれば、看護師みたいなことをする。そういう人が親切にしてくれたんだよ。

梁 検査をしたその日の夜に将校の軍医が来て…….

金 そう。来たけど逃げたんだよ。その次の日の夕方にまた来て、殴られてから、〔レイプ〕されたんだよ。それで、次の日に……。私だけじゃなくて、みんなされたのよ。それで死のうと思って。そこで働いている人が、それも民間人が名札を付けて入って来る、そうじゃないと入ることもできないよ。それで飲んで死ぬ薬を買って来いって言ったのに、お酒を買って来たのよ。それを飲んだら、ここが焼け付くみたいで、もう二杯目は分からない。それで3人ともぶっ倒れて、そこに衛生兵たちが来て、ホースで全部洗い出したんだって。

梁 ハルモニたちは薬を買って来いと言ったんですね。

金 そうだよ。飲んだら死ぬのを買って来いって言ったんだよ。そしたら酒だと思って酒を買って来たんだよ。

軍慰安所の日常

吉見 身体が治ってから軍人がたくさん来るようになったと思うのですが、普通は一日に何人くらい相手にしたのでしょうか。

金 毎日そんなだったら生きていけないよ。土曜日は12時から始まって夕方5時まで、日曜日は朝8時から始まって夕方5時まで。時間を決めて、時間が過ぎたら憲兵隊が見張っていて…….

梁 平日は？

金 平日は日曜日に来られなかった奴ら。だからちょっと暇だよ。土日が終わると下半身が腫れて大変だよ。すると軍医官たちが来て治療してくれる。薬もくれて、治療もしてくれる。それから平日はそんなに大勢来ないからまだましじゃない。それでまた土日になると大勢来て…….

吉見 休日はありましたか。

金 休日はない。普通の日は、平日はそんなにたくさん来ないから、ちょっと暇じゃない。その間に身体を休める。その間に身体の具合が悪いと、他のお姉さんたちが余分に働いてくれて。そうやってお互いに助け合うから。なんとかやっていけたんだよ。

吉見 性病検査が定期的にあったと思いますが、その日は休めるのですか。

金 1週間に1回検査をする。傷がひどい子は中断させる、治るまで。大丈夫だった人はそのまま〔軍人の〕相手をするようにする。

梁 その検査の日はどうなんですか。その日も軍人の相手をするのですか。

金 その日は検査をして時間が無いから、〔軍人の相手は〕できない。

生理のはじまり

吉見 当時まだ満14歳でしたが、生理は始まっていたか。

金 始まってないよ。あそこに行って血が出た時には、何か問題があるんじゃないかと思って本当に驚いたよ。そこにいた姉さんたちが、これは悪いものではない、大人になるとこういうものが出ると言っていて、ガーゼでおしめのようなものを作ってくれたよ。3日くらい、それがある時には、〔軍人の相手を〕しなくてもよかった。あいつらが血を怖がるから。

梁 生理期間だと1週間くらい？

金 1週間も休めないよ。3日くらいか、せいぜい5日くらい。

吉見 生理が始まったのはいつですか。

金 16歳の時。

吉見 満で？

金 数えて16歳。

梁 では、連れて行かれたのが満14歳、数え15歳だから行った翌年？

金 そう。

梁 その時にはどこにいましたか。

金 香港だと思う。

外出はできたか

吉見 広東の慰安所にいた時に外出はできましたか。

金 外出はできなかった。私たちが日本人と一緒にいるから、民間人が私たちのことも日本人だと思っていて、外に出たら拉致されるって言われたし、一切外出は禁止だった。

梁 誰が「拉致される」と言っていたのですか。

金 軍人たちが。

吉見 街の見物は全くできなかったのですか。

金 できないよ。慰安所をつくっておいたところには民間人はいない。留守番をする人〔家を守っている人のこと〕がところどころに見えただけ。人が全然いないから、留守番する人が必要じゃない。私たちが家を出ても残った人が家を守るみたいに家を守っている人、残っている人が見えたの。年取った人ばかりだった。若い人は見えなかった。

梁 その人たちは自分の家を守っているのですか。

金 そうだよ。

梁 では、民間人の家が見えることは見えたんですね。

金 見えたよ。

梁 どの話ですか。

金 香港で。

性の相手をすることを拒否できたか

吉見 軍人が毎日大勢来ると思うのですが、この

人は嫌だと拒否することはできましたか。

金 そんなことできないよ。〔部屋の中に軍人が〕入っていると、列を作って並んでる軍人たちが扉を叩いて早く出て来いって騒ぐし、ひとり出て行くとすぐに次の人が入って来るのに、嫌だなんて言うこともできないよ。そんなことは想像もできないことだよ。言われたとおりにしてさえいれば殴られることはないから。

吉見 それは軍人が殴るんですか。それとも業者が殴るんですか。

金 軍人だよ。私のところは、民間業者はいなかった。最初に連れて行った人は、在日同胞かどうか分からないけど、ちょっと韓国語のできる人だった。軍属。軍人には階級〔章〕があるじゃない。その人には階級〔章〕がない。私は、純粋に軍人だけ相手にしたんだよ。民間人とか、朝鮮人はいなかったよ。

吉見 軍人が暴れて怖い思いをしたことはありませんか。

金 軍人が酒を飲んで暴れたりすると他の人に支障があるから、朝、軍人が出て来ると、あそこから出て来て守るのよ。酒を飲んでふらふらしている人は入れない。憲兵が立ってて、時間になったら憲兵たちが〔軍人を〕外に出すし。

吉見 それは慰安所の入り口に〔憲兵が立っているのですか〕？

金 うん。

吉見 軍人が並ぶのは各部屋の前に並ぶんですか、それとも慰安所の入り口に並ぶんですか。

金 部屋の前。

吉見 各部屋の前ですか。

金 そうだよ。それでひとり出て行ったら次がすぐ入ってくる。割り込みというのはない。やって口げんかをしているのを聞いたことがある。

吉見 チケットのようなものを持って来たので

しょうか。

金 それは分からない。他のホルモニの話の聞いたら、何か票を持って来たとか言っていたけど。私が行ったところは純然たる陸軍本部だから、部隊から全部もらってくる。食糧でも何でも部隊から持ってくるから、軍人に出るものは私たちにも全部出る。

慰安所の出張

金 私たちはあそこに行った中ではまだ運がいい方だった。本部に付いて歩いているから、そんなに酷く扱われなかったけど、本部でも小隊があるじゃない。小隊があるところでは出張に出たんだよ。10人なら10人、5人なら5人が1週間とか出張に出るのよ。そこは山がそんなに高くはなくて、平坦でジャングルの中なのよ。その山向こうに小隊がいると、本部から私たちが出張に出て、そこにいる軍人たちを相手にして戻って来るんだけど、そこでは他に方法がないから、軍人たちが寝るところみたいにテントを張って、扉もないから他の奴がやってるのが見えるのよ。そんなところで1週間くらい、そいつらを相手にして、本部に戻って来たりしたんだよ。

梁 ホルモニは一度も出張には行ったことがないんですか。

金 私も1回行ったよ。酷い目に遭ったよ。

梁 それでそんなによくご存じなんですね。

金 うん。

梁 そういうものがあると、実際に出張に行く前に年上の女性たちから聞いてはいたんですか。

金 聞いたことなかったよ。出張に行くと言うから、何の出張に行くんだろうと思いつながら行って見たらそういうのだった。

吉見 それは広東の時ですか、それともスマトラの時ですか。

金 スマトラか、どこか、はっきり分からないけど、ジャングルが多いところだった。そこに行つて、そこがスマトラだと言われればそれが頭に入ったし、マレーシアだと言えば、だから行った先でどこだ、どこだつて言えば頭に認識されるんだけど、どちらの方向にどう行ったのかはよく分からない。でも、シンガポールが最後だというのは、はっきり覚えている。

梁 先ほどお話くださった規定、例えば土曜日は何時から何時までといった規定はどの場所でも同じでしたか。

金 うん。私たちが行くところは、どこでも同じだった。

休むことはできたか

吉見 毎日、たくさんの兵隊の相手をしなければならぬわけですが、多い日にひとりが出て行った後で少し休んだりできたのでしょうか。

金 休む時間はない。日本の軍人たちは脚にマキハン〔巻き脚絆のこと、日本語で発音〕巻いているじゃない。それを解いたりしていると時間がかかるわけだ。だからベッドがこういうふうにあると、ベッドに私たちがこういうふうにならなったら、その人たちは前のボタンだけははずすのよ。ボタンだけははずして、立ったまま……。家庭でするのは全く違うよ。ある人はサックをつけるんだけど、軟膏をつけるじゃない、ぬるぬるしたやつ。軟膏を塗るとすぐに入る、すぐに入って、すぐ出る。3分もかからないよ。だからあんなに大勢を相手できるんだよ。ひとり1時間、2時間かかったら身が持たない。

吉見 そういう状況が続くと身体はたいへんですよね。

金 ホルモニたちはいろいろな形で連れて行かれたと思う。過去には商売をする人もいたでしょ

う。昔は検番もあって歌も習ったし、飲み屋もあったでしょう。民間人がやってたものもあったと思うよ。でも、それとこれとは質が違うのよ。戦場で軍人たちの気をもり立てるために、純真な娘ばかり強制的に募集したんだよ。夫がいたら連れて行けないから、結局、結婚していない娘ばかり連れて行ったんだよ。私が行った時には30人くらいいたかな。その部隊にずっと付いて行く。20里先で戦争をしていると、20里離れたところで待ってるわけだ。上陸して移動することになったら、本部の軍人と戦争した軍人と交替するんだよ。本部の軍人と別の軍人と交替するから、人が見えたり見えなかったりする。戦争した人と本部にいた軍人と交代するんだよ。

梁 平日にはどのように過ごしたんですか。

金 平日は人が少ないから、集まって座ってお酒を飲んだり、身の上話をする。同じ女性として、どうやって連れて来られたか〔を話したり〕、家に帰ることもできないから、お互いに抱き合って泣いたり。そうやって過ごしたよ。

他の「慰安婦」について

梁 その30人は最後まで……。死んだ人もいなくて。

金 うん、最後まで。最後まで一緒にいて、シンガポールで戦争が終わって、陸軍病院に行くことになって、乗るのはみんな一緒に乗ったんだけど、どこに行っちゃったんだか……。

梁 船に乗る時？

金 収容所において、〔収容所から〕逃げる姉さんたちがたくさんいたのよ。なぜなら飢え死にしそうだったから。1日にトウモロコシ粉と小麦粉でお粥みたいなのを1日に2食だけくれる。

梁 収容所で？

金 うん、収容所で。アメリカ人、黒人が入って

来て、時計なんか持っているのと全部持って行っちゃうし、カバンなんかも全部見て、何かいいものがあれば出せって言うし、一切何も持って出られないようにしたのよ。それで逃げて、帰って来ない姉さんたちがいたよ。

「留守名簿」について

吉見 〔留守名簿を示しつつ〕この名簿の名前で覚えている人はいないでしょうか。

梁 この名簿に、金福童、1947年に21歳と、米軍が作成した名簿に出ているんですが、同じ名簿に例えば、^{キムフンスン}金粉順23歳という名前も出ています。^{キムソナム}金小南、^{ソルオンニョ}薛玉女、^{チョフファイ}趙華伊……。

金 名前は全部忘れちゃった。

梁 覚えている名前はありますか。

金 覚えている名前は、みんなもう死んでいないもの。

梁 この人たち以外に覚えている名前はありますか。

金 死んだ人たちしか覚えてないよ。^{バクトゥリ}朴頭理とか……。

梁 ああ、当時あそこに一緒にいた人ではなく、

金 うん、韓国に来て、ナムムの家に入って会った人たち。一緒に行った友達の中では、韓国に戻ってから友達ふたりが私の家に来て1ヶ月間暮らしたことがあるの、梁山で。梁山は今では市になっているけど、当時は郡で田舎だったのよ。田舎で畑仕事して暮らしてるんだから、そこに来て習うことも何もない。1ヶ月いて、つまらなくてだめだと言って釜山に行っちゃった。後で釜山に行って会ったけど、食堂に勤めて稼いでたよ。

梁 梁山に来た友達と一緒に船に乗って帰って来た友達ですか。

金 うん、そう。そうやって帰って来た人の中には、家庭を築いて暮らしている人が多いと思う

よ。家庭を守りたい人は出て来なかったと思うよ。私だって家庭があったら出てこなかった〔名乗り出なかった〕よ。こんなに長い間、解決しないと分かっていたら、心の中でだけ思って生きていたと思うよ。あそこに行って来た人は申告をしなきゃいけないのかと思って申告したんだけど、こんなに長くかかるとは思わなかった。

梁 一緒に船に乗って帰って来た友達ふたりは、ハルモニと一緒に梁山まで行ったんですか。

金 うん。

梁 船を降りて、そのまま一緒に？

金 うん、そのまま。

梁 なぜその人たちは自分の故郷に帰らなかったのでしょうか。

金 行くところがないって言っていたよ。後で分かったところでは、故郷が統管^{トンゴン}だとか、サムヨンポだとか、言っていたけど。家には帰れないって。それでうちに付いて来たいって。それで連れて行ったんだよ。それで1ヶ月くらいいたけど、田舎だから退屈でしょ。やっぱり暮らせないって言って釜山に行くって言って……。

梁 その人たちの名前は覚えていますか。

金 全部忘れちゃった。

梁 そういう経験のせいで故郷に帰れないと思った人たちがいたわけですね。

金 そう、いたよ。

帰国後の生活

梁 ハルモニは故郷に行こうと思ったわけですね。

金 そうだよ。故郷に行ってみたら、解放になっても帰って来ないから、解放後もすぐには帰れなかったから、だから他の人たちは帰還同胞になって帰って来るのに、そんなに遠くまで行っているとは思わなかったでしょう。家では、日本にいる

のに消息も全然ないし、それで死んだと思っていたんだよ。すぐ下の妹を、私が戻って来たその年に嫁に行かせてたんだよ。待って、待って、待ったけど、帰って来ないから、もう死んだんだと思って。

梁 では、妹が嫁に行った直後にハルモニが帰ったんですか。

金 うん。

吉見 実際に梁山に帰れたのは戦争が終わってどれくらい経ってからだったのでしょうか。

金 分からないよ。どれくらい経っていたのか。いくらしもないで6.25事変〔朝鮮戦争〕が始まったよ。6.25事変が起きたために、故郷を離れて釜山に行ったんだよ。釜山に行く前は畑仕事の他に習ったこともないけど、釜山に行って何か仕事しなきゃダメじゃない。それで出来そうなことがなくて、食堂で何ヶ月か住み込みで働いたんだよ。食堂で料理とか、お客さんの接待とか、経営の仕方とか、何ヶ月か習ってから自分で商売を始めたのよ。その時から、自分で商売を始めたわけ。釜山多大浦^{タデポ}の海水浴場のあるところで、商売をしていたの。

逃げることは可能だったか

吉見 30人くらい〔の慰安婦〕と一緒に移動するわけですが、途中で逃げた人などはいましたか。

また、逃げ出して捕まった人はいましたか。

金 逃げることなんかできない。どうやって逃げるの。逃げるにしても、逃げる場所がなきゃ。言葉ができるわけでもないし。日本とか、朝鮮だったら逃げられるかもしれないけど。外国に出て、軍人しか知らないのに、どうやって逃げるの。

興亜倶楽部

吉見 慰安所は同じだったということですが、その慰安所には名前が付いていましたか。

金 慰安所とは言わず、「ミブンジョン」って言ってたよ。ミブンジョンが朝鮮語か日本語かは分からないけど、ミブンジョンって言ってたよ。

梁 日本語でどういう音でしたか。

金 日本語でもミブンジョン……。

梁 日本語だとミブンジョンではないのでは？

金 それしか知らないから。ただ、ミブンジョンって言ってただけで。

梁 誰が、ここはミブンジョンだと教えてくれたんですか。

金 誰が教えてくれたかは分からない。一緒にいたみんながミブンジョンだと思ってたから。

梁 女性たちが。

金 うん。

梁 管理をする人が……。

金 その管理者が言ったと思うよ。その人がミブンジョンって言うから。

梁 朝鮮語のできる管理者が？

金 うん、そうだと思う。その人がミブンジョンって言うから、そう思ってたんだと思う。

吉見 「コアクラブ」というのが別の証言では出て来るんですが。

金 それ、同じじゃない。ミブンジョンと。コアクラブ？ コアクラブって何するところ？

梁 コアクラブって聞いたことがありますか。

金 うん、聞いたことある。

梁 どこで聞いたんですか。

金 あそこで聞いたかな。「コウアクラブ」って。

梁 あ、「コウアクラブ（興亜倶楽部）」ですか。ハルモニがいた、そこが「コウアクラブ」なんですか？

金 うん。

梁 それとも「ミブンジョン」なんですか？

金 うん。

梁 両方？

金 うん。

梁 コウアクラブがミブンジョンなんですか。

金 そうだよ。コウアクラブがミブンジョンかな。コウアクラブってたくさん聞いた。

吉見 ハルモニがいたところはコウアクラブなんですか。

金 うん、うん。コウアクラブというの、慰安婦という言葉ではないじゃない。なのにどうして「慰安婦」という言葉がどこから出て来たのかってことよ。

梁 慰安婦という言葉は一度も聞いたことがないんですか。

金 ないよ。あそこでは慰安所という言葉は聞いたことがない。

梁 場所によって名前が変わったりしたんですか。

金 同じだよ。

梁 コウアクラブとミブンジョンが同じ名前ということですか。

金 うん。同じだよ。本部なんだけど、将校たちがよく交代するんだよ。そこにいる人と本土にいる人が交代するの分からないけど、しょっちゅう代わるのよ。代わっても、本部は本部なの。

梁 では、長い間会った軍人はいないんですね。

金 そうだよ。交替するから。

軍物資配給の状況

梁 それで軍人の出身などは覚えていないんですね。

金 そうだよ。そうでなかったら、軍人の名前なんかも覚えていたと思うけど、長い間いなくて交替になるんだよ。いい人だか、悪い人だかも分から

ないし、私たちは言うとおりにしてれば殴られることはないし、食べ物を持って来てくれるし、軍人が食べるものと同じものを配給でもらってくるから、食べる物の心配はなかった。担当者が行って配給をもらって来るんだよ。服なんかも、どこでもらって来るんだか、いっぱい持って来るんだよ。それで好きなのを選んで着ろって言う。ちょっと大きかったりすると、持って行って詰めてくれたりする。だからお金は必要ない。お金は10円も持っていなかった。たばこも軍人と同じものが出た。天皇陛下のマーク、サクラマークが付いたやつが配給で出た。

梁 菊ではないですか。

金 分からない。サクラが付いてたよ。ピカピカ金色のが付いてるのを送って来た。

吉見 着物はどんなものを着ていたんですか。

金 上は上着みたいなもの、下はスカートみたいなもの、ワンピースみたいなもの。服なんか何を着ても関係ない。洗って脱げればいいんだから。ちょっと長くいる時には、どこから持って来るんだか風呂敷包みに一杯持って来たよ。それを解いて、好きなのを着ろって言われた。それからちょっと大きかったりすると、詰めてくれたりした。戦時だから、戦場だから、店なんかみんな避難して、逃げちゃっていなかったんだよ。だから、あるだけくれるんだよ。化粧品なんかも、あるもの持って来て使えって言うし。

吉見 それは一緒について行っている在日朝鮮人かもしれない男の人が持って来るわけですか。

金 軍人が持って来て管理者に渡す。それから管理者が私たちに持って来る。

軍慰安所の管理人について

梁 その管理者というのが朝鮮語が少しできる人ですね。

金 うん、韓国語が少しできる。今で言えば在日同胞みたいな……。

梁 発音がちょっと……。

金 うん。

梁 方言ではないんですか。

金 方言とかってというのは今でこそ分かるけど……。

梁 方言どころではなく、かなり下手だったということですか。

金 そうだよ。

梁 日本人かもしれないし、朝鮮人かもしれない。

金 そう。

梁 そんなに朝鮮語が下手なのに、朝鮮人かもしれないと言えますか。

金 在日同胞だって朝鮮語が下手な人いるじゃない。だから、分からない。とにかく韓国語が分かる人なんだけど、下手だった。

梁 最初に、その人と、もう一人、朝鮮語が全然出来ない人もいましたよね。

金 うん。その人とふたりで一緒にいたんだけど、途中でその人はいなくなった。

梁 朝鮮語が全然できなかった人が？

金 うん。

梁 じゃあ、朝鮮語が少し出来る人は最後までいたんですか。

金 うん。その人と、また違う人が管理して。全部、軍人たちが管理していたみたいだったけど。

梁 朝鮮語が少し出来た人は最初から最後までいて？

金 うん、最後までいた。でも、シンガポールに行ってから、どこだかなくなった。その頃には、私たちが日本語が出来るようになっていたから、日本人の相手が出来たからね。だからあの人たちがいなくてもやっていけたけど、どういうわ

けだか、シンガポールに行った後は行方不明になった。陸軍病院に連れて行っておいて、どこだかなくなった。

梁 では、管理者は常にふたりいたんですか。

金 うん。ふたり。

梁 常に二人？

金 うん。ひとりはずっと家について……。

梁 それが、朝鮮語ができる方の人？

金 うん。朝鮮語ができる人がいつも家について、もうひとり行ったり来たりしてた。軍人で、何か取りに行ったり持ってきたりした。

梁 陸軍病院までは朝鮮語の出来る管理者がいて、その後見えなくなったということですか。

金 うん、そう、見えなくなった。

梁 病院では全然姿を見なかった？

金 うん、見なかった。

吉見 朝鮮語の出来る管理者は釜山からずっと一緒だった人ですか。集める時からずっと？

金 そうだよ。

吉見 朝鮮人だったかもしれない、断定はできないということですか。

金 ……〔無言〕。

梁 長く一緒にいて、その人のことを……。

金 知ろうとも思わなかったし、その人たちがどんな人か、私たちには関係ないし……。

梁 話をしないんですか。

金 そんな話なんかしている時間もないし、その人がどんな人かなんて、抗議はしたよ。工場に行くって聞いてたのに、どうして工場じゃなくて、こんなところなんだって、抗議はしたよ。そしたら自分も知らなかったって。その人たちも工場だと思ってた、こんなところだとは思わなかったって、白を切っていたよ。

梁 その人は、自分で軍人だと言っていたんですか。

金 軍属だと言っていたよ。

梁 軍属だと自分で言っていたんですか。

金 うん。軍属だって。階級〔章〕のない軍人がいるんじゃない。自分もこういうところだとは、はっきり知らないで連れて来たって言っていたよ。

吉見 その人をハルモニは兄さんと呼んでたんですか？

梁 その人を何と呼んでましたか。

金 あの人、名前なんて言ったかな。名前です。

吉見 「兄さん」とは言ってませんでしたか。

金 そんなことは言わない。名前があった。カネムラならカネムラ、フクヤマならフクヤマ。〇〇さん、〇〇さんって。

広東・香港など

吉見 広東にはどれくらいいたのでしょうか。

金 広東には……。どこにどのくらいいたのか、それは分からない。自分の年が何歳なのかも分からなかった。家に帰ったらお母さんが22歳だと言って、8年目だと言ったので分かったのであって、そこにいる時には、何年目に帰って来たのかも分からないし、何年経ったのかも分からなかった。

吉見 香港での記憶は何かありますか。

金 香港は……。特別覚えていることはないんだけど、戦争が大きく起きたこと……。「キュウリュウ〔九龍〕」っていうところがあって、大きな海みたいなのがあって、こっちが香港で、こっちが「キュウリュウ」「キュウリュウ」〔発音しにくそうに、何度も「キュウリュウ」と発音〕っていうのがあって、そこは海なの。そこで戦争をやって、攻めて行かないとだめなんだけど、私たちはこっちにいるじゃない？ それで攻めて入ってい

かなきゃいけないんだけど、米軍〔正確には英軍〕が、あれあるじゃない、塞いで人が入っていけないようにするやつ、人が入れないように釘みたいにトゲトゲしたのが途中途中で飛び出してるやつ。

梁 鉄条網？

金 うん、鉄条網。鉄条網をずっと張り巡らせておいて、電気を通してあったの。日本軍が電気だつて知らないで、入って行って鉄条網を切ろうとして大勢死んだのよ。それでまた出て来て、準備をし直して、それを切って入って行ったら、あちは戦争の準備はしないでダンスを踊って遊んでたんだって。それでそのまま攻め入ったんだよ。戦争もしないで。そのまま奪ったわけよ。日本軍が。

梁 香港から九龍の方に？

金 うん。

梁 海を渡って攻めて行ったんですか？

金 船に乗って。軍人がたくさん死んだ。

梁 最初に行った時には鉄条網に電気が通っているのを知らなくて大勢死んで、次に行った時に相手が準備をしていなかった？

金 うん、中で戦争の準備もしないでダンスをしたつて。だから銃も撃たないで、そのまま上陸したのよ。

梁 その話を誰に聞いたんですか。

金 軍人たちから。

梁 その時ハルモニは香港にいたんですね。

金 うん、香港にいたよ。

梁 じゃあ、ハルモニも船に乗って九龍の方に……？

金 船には乗ってなくて、私たちが香港にいるから、軍人たちが、先発隊が入って行って闘ってみな死んで、後から入った部隊が銃を撃ちもしないで〔九龍〕を取ったつて。

梁 ハルモニたちはどうやって九龍に行ったんですか。

金 こっちからあっちを見れば見えるんだつてば。

梁 後で移動して九龍に行ったんじゃないんですか。

金 行ってない。香港からそのまま、マレーシアに行ったのか、スマトラに行ったのか。

梁 九龍に攻め入った軍人が交替して帰って来てそんな話をしてくれたんですか。

金 そう、帰って来てから話してくれたんだよ。

シンガポール・マレー

吉見 次は多分マレーではないかと。

梁 確かハルモニも次はマレーシアに行ったと前回おっしゃっていましたが？ 台湾、広東、香港の次がマレーシアだとおっしゃっていましたが？

吉見 次がシンガポールだと思うのですが、シンガポールの慰安所は何か記憶ありますか。

金 シンガポールにも慰安所があったと思う。そこに行ったら、たくさんあった。シンガポールに行ってみたら、韓国人の女が大勢いたよ。それから陸軍病院にも行ってみたら、集まっている女が大勢いたよ。朝鮮人の女たちが慰安婦としてそこにいて、あいつらが攻めて来たから、慰安婦というのが分からないように、自分で行きたいところがあったら行けと言ったり、高いところ、連れて歩くのが大変なところでは銃殺されたりしたつて聞いたよ。私たちが陸軍病院に行ったら、韓国の女たち、集まっている女たちがたくさんいたよ。

梁 マレーシアの記憶は何かありませんか。

金 マレーシアは暑い国だよ。民間人は見えなくて、見えるのは軍人だけ。

梁 マレーシアではずっと一カ所にいたんですか。

金 一カ所。

梁 歩いて進軍するんですか。

金 歩いては……。道がないから先発隊がジャングルに入って行って道を作るんだよ。車道を作って、移動する時には荷物を載せて、その上に私たちを乗せて、軍人たちと一緒に移動するんだよ。移動して行ったら、軍人たちが集まって準備をしてある。行けば幕舎が全部できてるんだよ。

梁 それはマレーシアの話ですか。

金 他のところに行っても、あいつらが集まって全部準備しておいて、私たちがそこに連れて行くのよ。他のところでは、道がないのよ。シンガポールに着いたら、道が開かれていて、車の通る道もあったよ。

吉見 軍人が戦闘している場面を見ることはありませんか。

金 20里離れたところにいるから分からないよ。交替して行ったり来たりしてるのだけ見て、上に飛行機が真っ黒く飛んでるのは全部見える。

吉見 ジャングルを移動している時に慰安所を作るというのはテントですか。どういうものですか。

金 ジャングルを越えて行くと、部落があるんだよ。部落のあるところに行くと、昔学校だったのか、工場だったのか、大きな家があるじゃない。そういうのを押収して、ベニヤ板で部屋を作るんだよ。人数に合わせて部屋を作る。

梁 ベニヤ板で作る家は、どこでも大体同じような感じで作るんですか。

金 うん、大体同じ。

梁 じゃあ、そのベニヤ板を持って歩いてるんですか。

金 私たちには分からないよ。

いい軍人もいた

金 あいつらの言うとおりにしていれば、自分の身体に害はないから、あいつらの言うことを聞かなかったら殴られて自分だけ大変な思いをする。だからといって、良くなるわけでもない。とにかく、あいつらの言う通りにしていれば可愛がられる。軍人だからと言って、みんながみんな悪いわけじゃない。可哀想だと言って勘弁してくれる軍人もいるし、少しでも休めと言って、ただ座って出て行く軍人もいたよ。

梁 そういう良い軍人がまた来たりしましたか。

金 時々来る。毎週来るわけではなく、時々来た。

梁 その軍人が来ると嬉しかったですか。

金 待つようになった。

梁 その軍人が座っている間に話をしたりしなかったんですか。軍人がハルモニのことを聞いたりとか。

金 どこから来たのかとか、どうして来たのかとか、自分たちも故郷を離れて来てるから、来たらタバコなんかもくれて、タバコを吸って見ると言ったり、お茶でも一杯飲んで行く。

梁 自分はどこの出身だとか言っていませんでしたか。

金 聞いてもいないから。

吉見 贈り物をしたり、軍票をくれたりという兵士はいませんでしたか。

金 第一線に行って帰って来ると、おみやげだと言って、時計とか指輪などを持って来たよ。それを集めておいたけど、帰って来る時に全部とられちゃった。一切持ち出せないと言って。

梁 なぜ集めておいたんですか。

金 使うところがないから集めておくのよ。いつかは故郷に行けるだろうという気持ちで集めていたんだと思うよ。ところがいざ帰れるとなった

ら、全部没収されて、何も持ち出せないようにしたのよ。

吉見 お金をくれる軍人はいませんでしたか。

金 いない。お金を使うところがないし。

病気

吉見 マレーシアでも、スマトラでも、ジャングルに入って行くことがあったと思いますが、ハルモニは病気になることはありませんでしたか。

金 しょっちゅう病気になったよ。ジャングルで蚊に刺されて脚が全部腐りそうになった。そしたら衛生兵が治してくれた。

吉見 マラリアにかかったりはしませんでしたか。

金 マラリアにかかる女もいたよ。マラリアにかかっても治療してくれる、部隊で。

梁 ハルモニは？

金 私はマラリアにかかったことはない。

シンガポールでの体験

梁 シンガポールは……。

金 シンガポールは行ってみたら都市だよ。大きな都市みたいところ。

吉見 シンガポールでも軍人の相手をしたのですか。

金 シンガポールに行った後は軍人の相手はしなかった。その時には解放〔日本の敗戦〕になってたんじゃないかしら？ そこに行ってから、移動したら軍人が来るものなんだけど、軍人が全然来なかったの。だからまた他のところに移動するんだと思ってたのよ。そしたら、トラックに病院のマークを付けて幌のついた車で来て、乗れって言うのよ。

梁 シンガポールで？

金 うん、シンガポールで。何も持たないで、着

る服だけ持って行けって。

梁 シンガポールに着いてどれくらいしてからですか。

金 どれくらいしてからかは分からないけど、軍人の相手はさせないで。とにかく、軍人たちがいないのよ。憲兵隊が来てちょっと待ってろって言うから待ってたら……。陸軍病院がシンガポールからちょっと越えて行ったところにあったんだけど、日本に行ってから聞いたらその病院はバンコクにあったって言うんだけど。どこにあったのかは分からないけど、日本人がバンコクだとか何とか、陸軍病院が。

インドネシアでの体験

吉見 スマトラに行った記憶はありますか。

金 スマトラの言葉は全部忘れちゃった。スマトラに行ったら、人々が鼻になんか変なものを刺したり、たまたま見えた人が服も着ないで刀を脇にさしてゐる人がいたよ。裸足で。それから、そこにいる人たちは木の上に家を建てて暮らしてた。そういうのは覚えてる。

吉見 地名で覚えているところはないですか。例えばパレンバンというのは聞いたことがありますか。

金 パレンバン、パレンバン……。分からない。

吉見 プキチンギというのはどうですか。

金 覚えてない。

吉見 バダン。

金 それは女の名前？ 知らない。

吉見 ジャワにも行った記憶がありますか。

金 ジャワというところに行ったら、そこでは人が住んでるのは全然見えなくて、ジャワでは小さな船に乗って漁をしている人が見えた。村はないみたいだったけど。あれがジャワだったと思うんだけど。

吉見 スマトラあるいはジャワで慰安所があったところは町中でしたか。

金 市街地じゃない。家がないんだよ。

梁 スマトラでは木の上に家を建てて住んでのを見たんですよね。ジャワでは人は見えなかったし。

金 うん。ジャワには長くいなかったと思う。

吉見 スマトラはある程度長くいたんですか。

金 うん。ちょっと長くいた。

吉見 スマトラで兵隊は何をしていましたか。

金 あいつらが何やってるか、私たちに分かるわけがないじゃない。

吉見 戦争をやっているようでしたか。

金 交替をして休んでいる本部なんだよ。

吉見 時計とか指輪を持って来る兵隊がいたという話はどこでの話ですか、スマトラですか。

金 どこがどこか分からないよ。くれるからもらっただけで、いつ、どこでもらったのかは分からないけど、もらうことはもらったよ。

梁 スマトラではもらったような気がしますか。

金 分からない。

梁 何と何がありましたか。

金 指輪と時計と腕輪みたいなもの。

梁 たくさんありましたか。

金 たくさん持ってたよ。全部とられて、一つも持って来られなかった。

吉見 この箱に入るくらいですか。

金 小さな箱に入れて……。そんなにたくさんはくれないよ。たまに軍人が持って来てくれるのを集めておいたんだよ。

軍慰安所の様相

吉見 スマトラの慰安所の建物はどんな様子でしたか。

梁 スマトラでも名前は「ミブンジョン」です

か。

金 同じ名前。

梁 スマトラのミブンジョンはどんな建物でしたか。

金 同じだよ。

梁 スマトラにそんな大きな建物があったんですか。

金 スマトラは大きな建物じゃなくて、小さな家がずっと並んでたよ。どんな人が住んでいたかは分からないけど、そこに入ったら部屋が足りないじゃない。だからそういう家に部屋を作って暮らしてたんだけど。

梁 部屋が足りないから別に作るんですか。

金 中に「ハコ」部屋を作るんだよ。

梁 小さな家の中に部屋を作るんですか。

金 そうだよ。

梁 家を建てるのではなく？

金 〔既存の家の中に〕部屋を作るんだよ。数に合わせて。

梁 じゃあ、小さな部屋ですね。

金 そうだよ。寝台を置いて、他のものは別に……。カバン一つ置いて。

梁 そのカバンはどこから持って行ったものですか。朝鮮から持って行ったんですか。

金 うん、朝鮮から持って行ったもの。

梁 それをずっと持って歩いたんですか。

金 そうだよ、韓国に帰ってから捨てたよ。

梁 そういう小さな家をいくつか押収して……。

金 家がずっと並んでた。

梁 大体一つの家の中に部屋をいくつか作りましたか。

金 私のいた家に、5人がいたかな。2階にふたり、下に3人だったかな。隣の家にまたそんな部屋があって、またその横の家にもそういう部屋があるし。

梁 スマトラで木の上に住んでいたのは民間人ですか。

金 誰が住んでいたのかは分からない。

梁 ハルモニがいた家は地面の上に建てた家ですね。

金 もちろん、そうだよ。家財道具は全部置いたままで行っちゃった。

吉見 その家というのはインドネシア人が住むような家なんですか。

金 小さな家。外国に行くと、ああいう家多いじゃない。女たちは布を巻いてた、年取った女たち。若い人は見たことがない。

吉見 その小さな家は木造ですか。

金 木造じゃなくて、セメントだか、はっきりは分からない。家は家だから、何で作ってたかは思い出せない。

吉見 近くに海がありましたか、山の中ですか。

金 海は見えなかった。大きな木があって、家は木の間にある。

吉見 一つの家と一つの家の間はかなり離れているんですか。

梁 家と家は近いんですか。

金 うん、近いよ。お互いに行き来できる。通路があるんだよ。元々住んでいた人がいたからかもしれないけど、家がずっと並んで、その間に通路があるから、あの家に行ったり、この家に行ったりしてたよ。

吉見 食事はどうしてたんですか。

金 ご飯はその女が来て作ってくれた。名札を付けて。掃除をする人も別にいるし。その人たちは私たちの用事をしたりは出来ない。そんなことしたらすぐにクビになっちゃう。

梁 食事はみんなと一緒にするんですか。

金 一緒には食べられない。時間が出来た人から食べる。

梁 部屋で食べるんですか。

金 別に食べる部屋がある。管理する男がその家にいるんだよ。だからその家に行って、ご飯を食べて、自分の部屋のある家に戻る。

梁 管理者がいる家には食堂だけあって、女性はいない？

金 そう、女性はいない。食べる場所だけある。

吉見 お風呂はあったんですか。

金 シャワーがあった。油のタンクみたいな大きいのあるでしょ。あれを上にはぶら下げてある。そこから水が出るように作ってある。

梁 それがスマトラですか。

金 そこもそうだし、マレーシアもそうだった。そういうのを作ってた。倉庫みたいところで、シャワーもして、洗濯もする。行くところ、行くところで、そういうのを作ってくれた。家にもともとあるんじゃないで、シャワーしたりするところを作ってくれた。

梁 広東でもそうでしたか。

金 うん、うん。

看護婦としての写真

金 一緒に行ってきたハルモニがいれば私もちょっと楽なんだけど。ところがおかしなことに、私と一緒に来て来た人の中で生きてる人が一人もいないのよ。密陽のハルモニも死んじゃったし。

梁 戦後にも会っていた方がいらっしゃったんですか。

金 うん、ソウルで一緒にデモしたりしてた。

梁 それと一緒にいった30人の中の一人だったんですか。

金 うん。

梁 いつ会ったんですか。

金 申告して、ソウルで。

梁 驚いたでしょう？

金 驚いたよ。「あんた生きてたの？」って。

吉見 第10陸軍病院というのはスマトラにいた時から知っていた病院ですか。

金 知らないよ。あいつらが最後に行こうって言って行ったところが病院なんだよ。病院に行くことも知らなかったし。

吉見 大阪の博物館でハルモニが写っている写真を見つけたということですが。

金 第10陸軍病院で撮ったもの。

吉見 それには、一緒にいた他の女性が一緒に写っているんですか。

金 うん。全部じゃないけど、親しい人同士で集まって撮った写真。最初に見た時、驚いたよ。

吉見 それは看護婦の格好をしてるんですか。

金 うん。でも、その写真を見たら、日本人看護婦って書いてあったのよ。日本人が看護婦をしたって書いてあったって。私の若い時の写真よ。

それで〔博物館の〕責任者に、私がここに写っているのに、どうして日本人だって言えるのかって言ったのよ。そしたら、軍人たちから収集した写真だから分からなかったって言ってたよ。全部朝鮮人だから直せって言って帰って来たのよ。あの時にもらって来れば良かったんだけど。置いて来たんだよ。後で韓国からハルモニが一人行って、そこで大騒ぎをしたらしい。韓国人なのにどうして日本人だって書いてるんだって。そしたらうるさいから、その写真を取り外してなくしちゃったのよ。

林志映 金文淑さん？

金 いや、ヨンス〔李容洙〕が行って騒いだの

よ。それからその写真がなくなっちゃった。

吉見 第10陸軍病院は1943年にはパレンバンにあったんですよ。だから、そこと関係あったのかと思ったけど、それとは関係ないみたいですね。他のところにて、連れて行かれたところが第10陸軍病院だったんですね。

金 あの時は挺対協から何人も一緒に行って〔その写真を〕見た。

林 92年か93年に行った時に見たみたいです。

梁 ハルモニはどうして年齢を満年齢で覚えているんですか。普通は数えじゃないですか。連れて行かれた年が満14歳って、満でおっしゃってましたよね。

金 私は15歳だと思ってたのよ。広東に最初に行った時に調査をされたの。軍人たちが調査しながら、私が15歳だって言ったら、満14歳だなんて言われたのよ。それで、私は14歳なのかなって。日本に行く時はみんな満で言うのよ。陸軍司令部から出て来たとかいう、位の高い人が5～6人で、長い刀を下げて座ってた。それで手を見ようって。

梁 どうして手を見ようと言ったんでしょう？

金 分からないよ。手をこう見て、こう見て、何歳なんだとか聞くんだけど、私は日本語で言えないじゃない。そしたら連れて行った人が15歳だって言ったのよ。そしたら、ははあ、14歳だって。「ジュウヨンサイ」って言うのが聞こえたの。私はそれくらいは聞き取れるから。それで覚えたんだよ。

吉見 改めてお礼申し上げます。長時間ありがとうございました。

(商学部教授・日本現代史)

